マニュアルの使いかた

安心してお使いいただくために

- パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
  ご使用前に必ずお読みください。

取扱説明書

- パソコンの準備
- 各部の名前
- Windowsのセットアップ
- 電源の切りかた
- 電源の入れかた
- リカバリー（再セットアップ）
- Q&A集

など

オンラインマニュアル（本書）

Windowsが起動しているときにパソコンの画面上で見るマニュアルです。

- パソコンを買い替えたとき
- パソコンの基本操作
- ネットワーク機能
- 周辺機器の接続
- バッテリー駆動で使う方法
- システム環境の変更

など

リリース情報

- 本製品を使用するうえでの注意事項など
  必ずお読みください。

参照 「はじめに - 7 リリース情報について」

もくじ

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。
必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。
本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 記号の意味

⚠危険	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠警告	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注意	“取り扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルやほかのマニュアルへの参照先を示します。 ● このマニュアルへの参照の場合…「　」 ● ほかのマニュアルやヘルプへの参照の場合…『　』

＊1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2 傷害とは、治療に入院・長期の通院を要さない、けが、やけど（高温・低温）、感電などをさします。
＊3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

2 用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows または Windows 7

特に説明がない場合は、Windows® 7 Professional を示します。

Bluetooth 機能搭載モデル

Bluetooth 機能を搭載しているモデルを示します。

TPM 搭載モデル

TPM 機能を搭載しているモデルを示します。

ご購入のモデルの仕様については、『＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

3 記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルの場合」や「＊＊＊＊シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは内蔵フラッシュメモリからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書では、コントロールパネルの操作方法について表示方法を「カテゴリ」に設定していることを前提に説明しています。表示方法が「大きいアイコン」または「小さいアイコン」になっている場合は、「カテゴリ」に切り替えてから操作説明を確認してください。
- 本書は、語尾をのばすカタカナ語の表記において、語尾に長音（ー）を適用しています。画面の表示と異なる場合がありますが、読み換えてご使用ください。
- 本書では、専用のペンによる操作と、指でディスプレイに触れる操作を、どちらも「タッチ」と表現しています。

4 Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Live、Windows Media、Aero、MSN、SkyDriveは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
  その他記載されている会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- Intel、インテルは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標、または登録商標です。
- SDロゴは商標です。（ ）
- SDHCロゴは商標です。（ ）
- SDXCロゴは商標です。（ ）
- HDMI、HDMIロゴおよびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLC.の登録商標または商標です。
- Fast Ethernet、Ethernetは富士ゼロックス株式会社の商標または登録商標です。
- ConfigFreeは、株式会社東芝の登録商標です。
- TRENDMICRO、ウイルスバスター、ウイルスバスタークラウドはトレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
- 「PC引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- Bluetoothは、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。

本書に掲載の商品の名称やロゴは、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

5 プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプターを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（たとえば、運用に高性能コンピューターが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
  目安として、標高1,000メートル（3,280フィート）以上をお考えください。
- 目安として、気温5～30℃（高所の場合25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。
これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

このほかの使用制限事項につきましては各種説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

6 著作権について

音楽、映像、コンピューター・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

7 リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

① [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をタッチする

8 お願い

- 内蔵フラッシュメモリにインストールされているシステム（OS)、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows標準のシステムツールまたは『取扱説明書』に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 内蔵フラッシュメモリにインストールされているシステム（OS)、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- 本製品の画像データは、本製品上で壁紙に使用する以外の用途を禁じます。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。有料にてパスワードを解除します。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、内蔵フラッシュメモリは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有料です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワードの設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。
  セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、当社はいっさいの責任を負いません。

- 「ウイルスバスター」を使用している場合、ウイルス定義ファイルなどは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングなどからコンピューターを保護するためにも、常に最新の状態で使用する必要があります。本製品に用意されている「ウイルスバスター」は、インターネットに接続していると自動的に最新の状態に更新されますが、90日間の使用制限があります。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。ウイルスチェックが全く行われない状態となりますので、必ず期限切れ前に有料の正規サービスへ登録するか、ほかのウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と『ソフトウェアに関する注意事項』、Windowsのセットアップ時に表示されるライセンス条項およびエンドユーザー使用許諾契約書をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書が表示されなくなります。リカバリーを行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書』は、記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザー登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。当社ホームページで登録できます。

参照 詳細について「付録 3 お客様登録の手続き」

9 ［ユーザーアカウント制御］画面について

操作の途中で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから、画面の指示に従って操作してください。
パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

10 映像／音楽関連の機能を使用するにあたって

❏ 映像を扱うアプリケーションについて

映像を扱うアプリケーションの使用中に、スリープ／休止状態への移行を行わないようにしてください。
エラーメッセージが表示されたり、アプリケーションが終了したりする場合があります。
その場合は、使用したいアプリケーションを再度起動してください。

1章

使いはじめる前に

トラブル発生時に備えて、リカバリーメディアの作りかたやデータのバックアップのとりかたについて説明します。また、前のパソコンで使っていたデータを移行する便利なソフト「PC引越ナビ」について説明します。

1 リカバリーメディアを作る

本製品には、システムやアプリケーションを購入時の状態に復元するためのリカバリー（再セットアップ）ツールが搭載されています。
「TOSHIBA Recovery Media Creator」を使って、あらかじめ、リカバリーツールのバックアップをとっておくこと（リカバリーメディアの作成）をおすすめします。
作成したリカバリーメディアは大切に保管してください。
何らかのトラブルで内蔵フラッシュメモリからリカバリーできない場合でも、リカバリーメディアからリカバリーをすることができるようになります。
リカバリーメディアがない状態で、内蔵フラッシュメモリからリカバリーが行えない場合は、修理が必要になる可能性があります。東芝PCあんしんサポートに相談してください。

■リカバリー（再セットアップ）とは

リカバリー（再セットアップ）をすると、内蔵フラッシュメモリ内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windowsログオンパスワードなど）も購入時の状態に戻る、つまり何も設定していない状態になります。
詳しくは、『取扱説明書』を参照してください。
また、データのバックアップについては、普段から定期的に行っておくことをおすすめします。

リカバリーメディアを作成できる記録メディア

「TOSHIBA Recovery Media Creator」では、次の記録メディアのいずれかを使用できます。
何もデータが書き込まれていないものを用意してください。

- USBフラッシュメモリ（容量32GBまでのUSBフラッシュメモリが使用できます。）
- 記録用のDVDメディア＊1（DVD-R、DVD-R DL、DVD-RW、DVD+R、DVD+R DL、DVD+RW）

＊1 外付けのDVDドライブ（市販品）を接続すると、DVDを使用できます。

［TOSHIBA Recovery Media Creator］画面の［メディア構成］で記録メディアの種類を選択すると、［情報］に、必要な記録メディアの枚数や容量が表示されます。
DVDの場合は、必要な枚数が表示されます。複数枚使用する場合は、同じ規格の記録メディアで統一してください。
USBフラッシュメモリの場合は、リカバリーメディアの作成に最低限必要な容量が表示されます。
表示される容量より大きい容量のUSBフラッシュメモリを用意してください。

お願い DVDについて／DVDの使用推奨メーカー

- 外付けのDVDドライブ（市販品）で使用できるDVDについては、『DVDドライブに付属の説明書』を確認してください。

お願い リカバリーメディアの作成にあたって

- 「TOSHIBA Recovery Media Creator」ではDVD-RAMを使用できません。
- 「TOSHIBA Recovery Media Creator」を使ってリカバリーメディアを作成するときは、ほかのアプリケーションソフトをすべて終了させてから、行ってください。

USBフラッシュメモリまたはDVDに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。
守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへの振動や衝撃などの本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 書き込みに失敗したメディアの損害については、当社はいっさいその責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、メディアに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- DVDに書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応し、それぞれの規格に準拠した記録メディアを使用してください。また、推奨するメーカーの記録メディアを使用してください。

  参照 DVDについて『DVDドライブに付属の説明書』
- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプターを接続してパソコン本体を電源コンセントに接続して使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スリープ、休止状態、シャットダウンまたは再起動を実行しないでください。

  参照 省電力機能について「5章 2 省電力の設定をする」
- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  - ・スクリーンセーバー
  - ・ウイルスチェックソフト
  - ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  - ・音楽や映像の再生アプリケーション
  - ・LANなどの通信アプリケーション　　など

  ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。
- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザーを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 書き込み中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

  参照 周辺機器について「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」
- パソコン本体から携帯電話、およびほかの無線通信装置を離してください。

リカバリーメディアを作成するには、以降の説明を参照してください。

1 インストール方法

「TOSHIBA Recovery Media Creator」は、購入時の状態ではインストールされていません。次の手順でインストールしてください。

メモ

- アプリケーションをインストール／アンインストールする場合は、必ず画面を横にした状態で行ってください。縦にした状態では、インストール／アンインストールできない場合があります。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をタッチする**

2 **［セットアップ画面へ］をタッチする**

3 **［ユーティリティ］タブをタッチする**

4 **画面左側の［TOSHIBA Recovery Media Creator］をタッチし、［「TOSHIBA Recovery Media Creator」のセットアップ］をタッチする**

5 **画面の指示に従ってインストールする**

「XXXX（ファイル名）を実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、［実行］ボタンをタッチしてください。

2 リカバリーメディアを作成する

外付けのDVD ドライブ（市販品）でDVDのリカバリーメディアを作成する場合は、あらかじめパソコン本体に接続しておいてください。

お願い

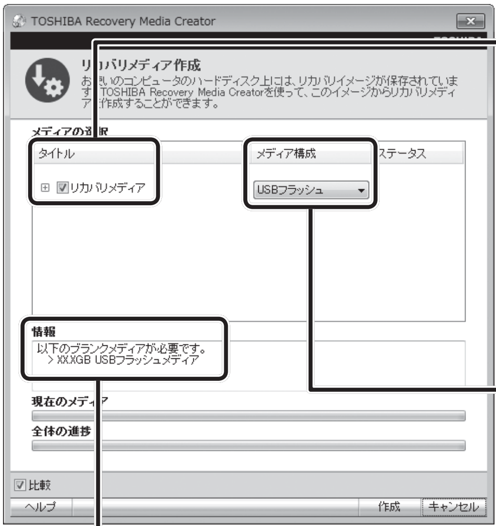
- リカバリーメディアの作成を途中で終了したときなどに、「HDDリカバリデータを削除してWindowsパーティションを拡張しますか？」というメッセージが表示されることがあります。
リカバリーメディアを作成していない場合は［キャンセル］を選択してください。
［OK］を選択するとリカバリーツールが削除されます。リカバリーツールが削除されると、リカバリーができなくなり、リカバリーメディアも作成できない状態になります。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［サポート&リカバリー］→［リカバリーメディア作成ツール］をタッチする**

「TOSHIBA Recovery Media Creator」が起動します。

2 ［タイトル］、［メディア構成］を選択する

［情報］に、必要なDVDの枚数やUSBフラッシュメモリの容量が表示されます。



（表示例）

タイトル
チェックボックスにチェックがついている（☑）リカバリーメディアを作成します。
⊞をタッチすると作成するリカバリーメディアの一覧が表示されます。
作成する必要のないリカバリーメディアは、チェックをはずしてください。

メディア構成
作成する記録メディアの種類を選択します。

情報
USBフラッシュメモリの場合、画面に表示される容量が必要になります。
DVDの場合、画面に表示される枚数分が必要になります。

3 ［作成］ボタンをタッチする

作成するメディアの確認と、記録メディアのセットを求める画面が表示されます。

4 USBフラッシュメモリまたはDVDをセットする

参照 USBフラッシュメモリのセット「4章 2 USB対応機器を使う」
DVDのセット『DVDドライブに付属の説明書』

メッセージが表示される場合があります。
内容を確認し、［OK］をタッチしてください。

5 ［OK］ボタンをタッチする

作成が開始され、［現在のメディア］に、作成しているリカバリーメディアの進捗状況が表示されます。作成を途中で中止する場合は、［キャンセル］ボタンをタッチしてください。

DVDの場合、作成が終了すると、自動的にディスクトレイが開きます。作成するメディアが複数枚ある場合は、メッセージに従って記録メディアを入れ替えてください。

6 メッセージを確認し、[OK] ボタンをタッチする

作成したリカバリーメディアには、次のことがわかるように目印をつけてください。

- 「リカバリーメディア」であること
- 複数枚ある場合は、番号

たとえばDVDの場合、「リカバリーメディアXX（番号）」というように、レーベル面に油性のフェルトペンなどで記載してください。リカバリーをするとき、この番号の順にリカバリーメディアを使用しないと、正しくリカバリーされません。必ずリカバリーメディア番号がわかるようにして保管してください。

7 [閉じる] ボタン（）をタッチする

[TOSHIBA Recovery Media Creator] 画面が閉じ、メディアの作成を終了します。
「HDDリカバリデータを削除してWindowsパーティションを拡張しますか？」というメッセージが表示されます。

8 [OK] または [キャンセル] をタッチする

内蔵フラッシュメモリ内にある、リカバリーツールを削除するかどうかを選択できます。

[OK] を選択した場合	：内蔵フラッシュメモリからリカバリーツールは削除され、その分の容量をユーザーデータ領域に使用できます。
[キャンセル] を選択した場合	：内蔵フラッシュメモリ内にリカバリーツールが残ります。

リカバリーメディアからリカバリーをする操作手順については、『取扱説明書』を参照してください。

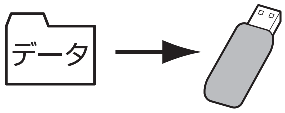
ヘルプの起動方法

1 「TOSHIBA Recovery Media Creator」を起動後、[ヘルプ] ボタンをタッチする

参照 「TOSHIBA Recovery Media Creator」のお問い合わせ先
『取扱説明書 4章 4 お問い合わせ先』

2 バックアップをとる

保存したファイルやフォルダーを誤って削除してしまったり、パソコンのトラブルなどによってファイルが使えなくなってしまうことがあります。
このような場合に備えて、あらかじめファイルをUSBフラッシュメモリなど、内蔵フラッシュメモリ以外の記録メディアにコピーしておくことをバックアップといいます。



大切なデータは、こまめにバックアップをとってください。

「東芝ファイル同期ユーティリティ」を使用して2つのフォルダーを同期させて自動的にバックアップをとることもできます。

お願い **バックアップをとるにあたって**

- あらかじめ、「付録 1 - 2 バックアップについて」を確認してください。

役立つ操作集

Windowsのバックアップ機能

Windowsのバックアップ機能を使ってバックアップをとることもできます。
［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をタッチして、表示された画面で［ バックアップの作成］をタッチしてください。



参照 詳細について『Windows ヘルプとサポート』

1 バックアップが必要なデータ

バックアップをとることを推奨するデータには、次のようなものがあります。

- リカバリー（再セットアップ）ツール
- 自分で作成したデータ（文書、画像、映像、音楽など）
- 送受信したメール
- メールのアドレス帳
- インターネットの［お気に入り］

■MS-IMEで登録した単語について

日本語入力システムMS-IMEの「単語の登録」または「単語/用例の登録」で登録したユーザー辞書データをバックアップすることができます。
詳しくは、「MS-IME」のヘルプを確認してください。

- **ヘルプの起動方法**
  IMEツールバーの［ヘルプ］ボタンをタッチし、表示されたメニューから［Microsoft® Office IME 2010］または［Microsoft(R) IME］→［目次とキーワード］をタッチする

■インターネット接続の設定情報について

インターネット接続の設定情報は、データのバックアップがとれません。
設定情報はプロバイダーから送られてきた書類に記載されています。書類を大切に保管し、設定に必要な情報を忘れないようにしてください。
書類が手元にない場合は、次のインターネットの設定を控えてください。

- ユーザーID
- パスワード
- 電子メールアドレス
- メールパスワード
- プライマリDNS サーバー
- セカンダリDNS サーバー
- インターネットメールサーバー
- ニュースサーバー
- アクセスポイントの電話番号

など

データのファイルやフォルダーがある場所

データのファイルやフォルダーは次の場所に保存されています。
これらのファイルやフォルダーは、そのままバックアップ用の記録メディアにコピーすることができます。

自分で作成したファイルやフォルダー	保存時に指定した場所に保存されています。わかりやすい場所に保存しておいてください。保存先を忘れた場合は、[スタート] ボタン（ ）をタッチし、[プログラムとファイルの検索] で探すことができます。
[マイ ドキュメント]、[お気に入り]、[デスクトップ] など	[コンピューター] - 内蔵フラッシュメモリ（C:）- [ユーザー] 内の各ユーザー名のフォルダーに保存されています。

複数のユーザーで使っている場合は、それぞれのユーザー名でログオンし、データのバックアップをとってください。
記録メディアに保存したデータのバックアップをとる場合は、いったん内蔵フラッシュメモリに保存してから、バックアップ用の記録メディアにコピーすることをおすすめします。

2 おすすめするバックアップ運用

次の方法でバックアップをとることをおすすめします。

■定期的にバックアップをとる

内蔵フラッシュメモリ（C:）に保存されているデータは、故障などの原因で、使えなくなってしまうことがあります。定期的に記録メディアにバックアップをとってください。

3 データのバックアップをとる

1 バックアップ用に使用できる記録メディア

バックアップ用に使用できる記録メディアは次のようなものがあります。

- USBフラッシュメモリやSDメモリカードなどの記録メディア

また、ファイルやフォルダーの容量に合わせて、使用する記録メディアを選び、あらかじめ用意してください。

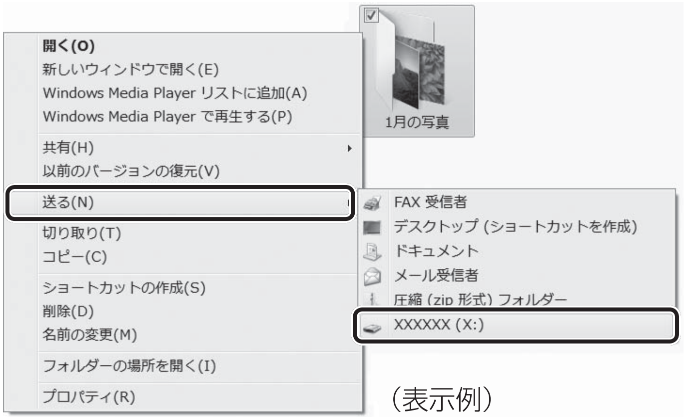
2 バックアップ方法

ここでは、一般的な、ファイルをコピーしてバックアップをとる方法について説明します。
USBフラッシュメモリやSDメモリカードなどに、フォルダーやファイルをコピーすることができます。

1 記録メディアをセットする

参照 USBフラッシュメモリのセット「4章 2 USB対応機器を使う」
SDメモリカードのセット「2章 8 - 2 メディアカードのセットと取り出し」

2 データが保存してあるフォルダーをプレス アンド ホールドし、表示されたメニューから［送る］→手順 1 の記録メディアをタッチする



（表示例）

バックアップのデータを戻すには

バックアップをとった［マイ ドキュメント］、［お気に入り］、［デスクトップ］などのデータを内蔵フラッシュメモリに戻す方法を説明します。

①［スタート］ボタン（ ）→［コンピューター］をタッチする
②［ハードディスクドライブ（C:)］（内蔵フラッシュメモリ）をダブルタッチする
③［ユーザー］フォルダーをダブルタッチする
④バックアップしたデータを利用する、ユーザーのフォルダーをダブルタッチする
⑤バックアップをとった記録メディアをセットする
⑥手順⑤でセットした記録メディア内に保存されている［マイ ドキュメント］、［お気に入り］、［デスクトップ］フォルダーなどを、ユーザーのフォルダー内にコピーする
　メッセージが表示されたら、確認してボタンをタッチしてください。
　それぞれのフォルダーが上書きされます。

4 フォルダーを同期させて自動的にバックアップをとる

「東芝ファイル同期ユーティリティ」を使って、2つのフォルダーの中身を同期させるように設定することができます。たとえば、AフォルダーとBフォルダーを同期させた場合、Aフォルダー内のファイルを更新（追加／削除／更新など）すると、自動的にBフォルダー内のファイルも同様に更新されます。つまり、Bフォルダーは、Aフォルダーの中身を自動的にバックアップしていることになります。

1 起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［ファイル同期ユーティリティ］をタッチする

「東芝ファイル同期ユーティリティ」が起動します。

設定方法の詳細は、ヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

1 「東芝ファイル同期ユーティリティ」を起動後、［ヘルプ］ボタンをタッチする

3 前のパソコンのデータを移行する
－PC引越ナビ－

パソコンを買い替えたときは、それまでに使用していたパソコンと同じ環境にするために、設定やデータの移行といった準備が必要です。
「PC引越ナビ」は、データや設定を一つにまとめ、新しいパソコンへの移行の手間を簡略化することができるアプリケーションです。事前に次の点を確認しておくと、よりスムーズに操作ができます。
ここでは、移行したい設定やデータが保存されているパソコンを「前のパソコン」、設定やデータを移行したいパソコンを「新しいパソコン」として説明します。

パソコンの仕様を確認する

■前のパソコンの動作環境を確認する

「PC引越ナビ」は、次のシステムに対応しています。

- **システム**＊1
  Windows XP／Windows Vista／Windows 7

  ＊1 マイクロソフト社が提供している最新のService Packを適用してください。また、「Internet Explorer」のバージョンが「6 SP1」以上であることを確認してください。それ以下のバージョンの場合は、「6 SP1」を適用してください。

  システムの正式名称は次のとおりです。
  Windows XP ....Microsoft® Windows® XP operating system 日本語版の全エディション
  Windows Vista.......Microsoft® Windows Vista® の全エディション
  Windows 7 ....Microsoft® Windows® 7の全エディション

お願い 前のパソコンの動作環境について

- あらかじめ、「付録 1 - 3 「PC引越ナビ」について」を確認してください。

■使用できる環境を確認する

設定・データの移行をするには、USBフラッシュメモリを使用する方法があります。
前のパソコンと、新しいパソコンの仕様を確認し、共通して使用できる方法のなかから、移行する設定・データの容量に適した方法を選んでください。

前のパソコンでどの方法が使用できるかを確認し、USBフラッシュメモリが必要な場合は購入してください。また、フォーマットが必要なUSBフラッシュメモリは、あらかじめフォーマットしてください。

- USBフラッシュメモリのみで移行する場合は、512MB以上の容量が必要です。
  移行するファイルや設定内容に比べて、USBフラッシュメモリの容量が小さいと、数回に分けてデータをコピーすることになりますので、大容量のUSBフラッシュメモリを移行用に使用することをおすすめします。
- USBフラッシュメモリの代わりに、メディアカードを使用することもできます。
  本製品で使用できるメディアカードについては、「2章 8 いろいろなメディアカードを使う」で確認してください。

移行できる設定とデータ

「PC引越ナビ」を起動したときの、ユーザーの設定とデータを移行できます。

- Internet Explorerの設定[＊1]
- Windows Live メール（Windows メール、Outlook Express）の設定[＊2＊4]
- Microsoft Outlookの設定[＊3＊4]
- ［ドキュメント］（または［マイ ドキュメント］）フォルダーに保存されているファイル
- デスクトップ上のファイル
- 任意のフォルダーに含まれるファイル

＊1 Microsoft Internet Explorer 6 SP1以上
＊2 移行できるデータは、「Microsoft Outlook Express（バージョンが6.0 SP1以上)」、「Windows メール」、「Windows Live メール」のデータです。
＊3 移行できるデータは、「Microsoft Outlook 2000」以降のデータです。
本製品には、Office搭載モデルにのみ、「Microsoft Outlook」が付属およびインストールされています。前のパソコンに保存されている「Microsoft Outlook」のデータをOfficeが搭載されていないモデルに移行したいときは、「PC引越ナビ」をご使用の前に、市販の「Microsoft Outlook」を新しいパソコンにインストールする必要があります。
移行するためには、「Microsoft Outlook 2003」以降の「Microsoft Outlook」をインストールしてください。
＊4 新しいパソコンにメールソフトがインストールされていない場合でも、「PC引越ナビ」はパソコンにデータを保存します。
「Windows Live メール」および「Microsoft Outlook」は起動したときに、保存したデータのインポート（取り込み）を行います。
メールソフトによっては、違うソフトのデータを変換して取り込むことができます。
詳しくは、メールソフトのヘルプを確認してください。

メモ

- 移行できる設定やデータの詳細は、「PC引越ナビ」のヘルプで確認してください。

1 インストール方法

「PC引越ナビ」は、購入時の状態ではインストールされていません。
次の手順でインストールしてください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をタッチする

2 ［セットアップ画面へ］をタッチする

3 ［アプリケーション］タブをタッチする

4 画面左側の［PC引越ナビ］をタッチし、［「PC引越ナビ」のセットアップ］をタッチする

5 画面の指示に従ってインストールする

「XXXX（ファイル名）を実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、［実行］ボタンをタッチしてください。

2 起動方法

1 デスクトップ上の［PC引越ナビ］アイコン（ ）をダブルタッチする

「PC引越ナビ」が起動します。
［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［PC引越ナビ］をタッチして起動することもできます。

2 画面下の ヘルプ ? ボタンをタッチし、注意制限事項を確認する

「PC引越ナビ」のヘルプが表示されます。
「PC引越ナビ」の注意制限事項をお読みください。
目次で［注意制限事項とメッセージ］をタッチし、画面右側に表示される各項目をよくお読みください。

3 ［同意する］をチェックし、［次へ］ボタンをタッチする

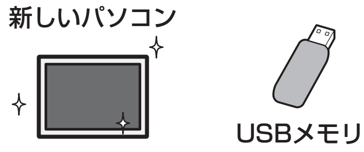
使用許諾契約に同意しないと、「PC引越ナビ」を使用することはできません。
注意事項が表示されます。内容を確認し、［次へ］ボタンをタッチしてください。

引き続き、説明画面が表示されますので、内容を確認しなから、操作してください。

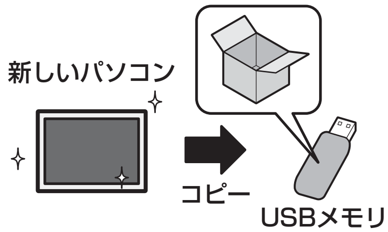
3 操作の流れ

設定とデータの移行は、画面の指示に従って行います。移行する設定・データや使用する移行方法などで操作の詳細は異なりますが、大まかな流れは次のとおりです。
新しいパソコンと、前のパソコンとで交互に作業を行いますので、近くに設置して行うとよいでしょう。

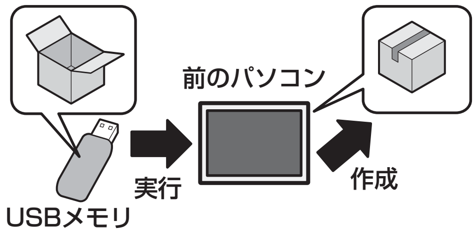
移行方法を決める
いくつかある移行方法のなかから、前のパソコンと新しいパソコンの仕様や、移行するデータの容量を元に移行方法を選択します。



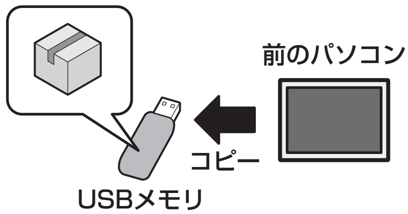
「こん包プログラム」をコピーする
「こん包プログラム」は複数のファイルを1つにまとめるプログラムです。
USBフラッシュメモリにコピーしてください。



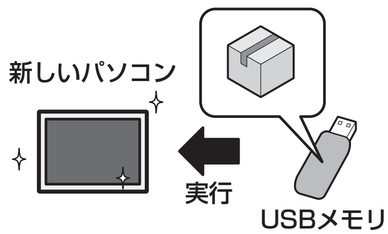
「こん包プログラム」を実行する
コピーした「こん包プログラム」を実行し、移行する複数のデータを1つのファイル（「こん包ファイル」）にまとめます。



「こん包ファイル」をコピーする
作成した「こん包ファイル」をコピーします。移行するデータの容量によっては、「こん包ファイル」は複数作成されます。すべての「こん包ファイル」をコピーしてください。



「こん包ファイル」を開こんする
コピーした「こん包ファイル」を新しいパソコンで開き、コピーします。



2章

パソコンの基本操作を覚えよう

このパソコン本体の各部について、基本の使いかたなどを説明しています。

1 電源を入れるとき

1 メッセージが表示された場合

電源を入れたときにメッセージが表示された場合は、次の内容を確認してください。

■パスワードを設定している場合

● **ユーザーパスワードを設定している場合**

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

パスワードを入力してください

画面上のキーボードでユーザーパスワードを入力し、ENT キーをタッチしてください。

参照 パスワードについて「6章 4 パスワードセキュリティ」

● **HDDパスワードを設定している場合**

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

HDD/SSDのパスワードを入力してください

画面上のキーボードでHDDパスワードを入力し、ENT キーをタッチしてください。

メモ

- パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
  電源を入れ直してください。
- ユーザーパスワードとHDDパスワードの両方を設定してある場合は、ユーザーパスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。ただし、ユーザーパスワードとHDDパスワードが同一の文字列の場合は、ユーザーパスワードの認証終了後、HDDパスワードの認証は省略されます。

参照 パスワードについて「6章 4 パスワードセキュリティ」

■メッセージが表示される場合

不明なメッセージについては、『取扱説明書』の「Q&A集」をご覧ください。

2 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、本体の内蔵フラッシュメモリからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

■一時的に変更する

電源を入れたときに表示されるメニューから、起動するドライブを選択できます。

1 音量大ボタン（［＋］）を押しながら、電源を入れる

電源は、電源スイッチをオリエンテーションロックボタン側にスライドし、指をはなすと入ります。

参照 電源の入れかた『取扱説明書』

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながす画面が表示されます。

画面上のキーボードでパスワードを入力して、［ENT］キーをタッチしてください。

参照 「本節 1 メッセージが表示された場合」

2 起動したいドライブをタッチし、Windowsボタン（⊞）を押す

一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

お願い

- 「HDDリカバリー」は選択しないでください。HDDリカバリーを実行すると、内蔵フラッシュメモリ内に保存されているデータはすべて消去されます。
  間違えて選択してしまった場合、メッセージが表示されますので「いいえ」または「No」をタッチし、Windowsボタン（⊞）を押してください。電源が切れるので、手順 1 からやり直してください。
  HDDリカバリー（内蔵フラッシュメモリからのリカバリー）については、『取扱説明書』を確認してください。

■あらかじめ設定しておく

「東芝HWセットアップ」の［OSの起動］タブで起動ドライブの優先順位を変更できます。

参照 設定の変更「東芝HWセットアップ」のヘルプ

2 使い終わったら

パソコンを使い終わったとき、電源を完全に切る「シャットダウン」を行ってください。中断するときは、それまでの作業をメモリに保存して一時的に中断する「スリープ」があります。

⚠警告

- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定した上で、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
  ・無線通信機能は、「TOSHIBA Flash Cards」の［ワイヤレス］のカードで無効にすることができます。［ワイヤレス］のカードをタッチして、表示されたアイコン群から をタッチしてください。
  ・スリープや休止状態では、パソコンが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  ・電源を切った状態でもパソコンが自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効に（解除）してください。

お願い　操作にあたって

中断する前に

- スリープまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。
  書き込み途中のデータがある状態でスリープまたは休止状態を実行したとき、データが正しく書き込まれないことがあります。

中断したときは

- スリープ中にバッテリー残量が減少した場合、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。システムが起動しない場合は、電源スイッチを５秒間オリエンテーションロックボタン側にスライドして、いったん電源を切ったあとで、再度電源を入れてください。この場合、スリープ前の状態は保持できていません（Windowsエラー回復処理で起動します）。
- スリープまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。

1 電源を切る

パソコンを使わないときは、スリープではなく電源を切ってください。
間違った操作を行うと、故障したり大切なデータを失うおそれがあります。

お願い　電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- データの書き込み中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。

電源を切るには、次のように操作してください。

1 ［スタート］ボタンをタッチする



（表示例）

2 ［シャットダウン］をタッチする



（表示例）

Windowsを終了したあと、パソコンの電源が自動的に切れます。
パソコン本体の電源が切れると、Power LEDが消灯します。

お願い　電源を切ったあとは

- パソコン本体に接続している機器（周辺機器）の電源は、パソコン本体の電源を切ったあとに切ってください。
- パソコン本体や周辺機器の電源は、切ったあとすぐに入れないでください。故障の原因となります。

■再起動

Windowsを終了したあと、すぐにもう一度起動することを「再起動」といいます。パソコンの設定を変えたときやパソコンがスムーズに動かなくなってしまったときなどに行います。
再起動するには、次のように操作してください。

①［スタート］ボタン（ ）をタッチし、 をタッチする
②表示されたメニューから［再起動］をタッチする

2 スリープ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチをオリエンテーションロックボタン側にスライドすると、状態をすばやく再現することができます。
スリープはバッテリーを消耗しますので、ACアダプターを取り付けて使用することを推奨します。作業を中断している間などにバッテリーの残量が少なくなったときは、通常のスリープの場合、それまでの作業内容が消失します。

参照 ハイブリッド スリープ「本項 2 スリープ機能を強化する」

なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

メモ

- 「TOSHIBA Flash Cards」を使って、スリープを実行することもできます。

参照 TOSHIBA Flash Cards「本章 4 「TOSHIBA Flash Cards」について」

1 スリープの実行方法

1 ［スタート］ボタンをタッチする



（表示例）

2 ▷ ボタンをタッチし①、表示されたメニューから［スリープ］をタッチする②



（表示例）

スリープ状態になります。
電源スイッチをオリエンテーションロックボタン側にスライドすると、中断したときの状態を再現します。

2 スリープ機能を強化する

通常のスリープのほかに「ハイブリッド スリープ」という機能が用意されています。
パソコンの使用を中断したとき、それまでの作業をメモリに保存するスリープに対して、ハイブリッド スリープはメモリと内蔵フラッシュメモリの両方に保存します。
作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。ハイブリッド スリープを有効にしておけば内蔵フラッシュメモリから作業内容を復元できるので、ハイブリッド スリープを有効にして使用することを推奨します。
ハイブリッド スリープを有効にしている状態でスリープを実行すると、ハイブリッド スリープとして機能します。この場合は、スリープを実行してからスリープ状態になるまでの時間が長くなります。
またスリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するようにも設定できます。

参照 休止状態に移行する設定について　本項の「役立つ操作集」

ハイブリッド スリープを有効にするには、次の手順で設定してください。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をタッチする**

2 **［ ハードウェアとサウンド］→［ 電源オプション］をタッチし、選択している電源プランの［プラン設定の変更］をタッチする**

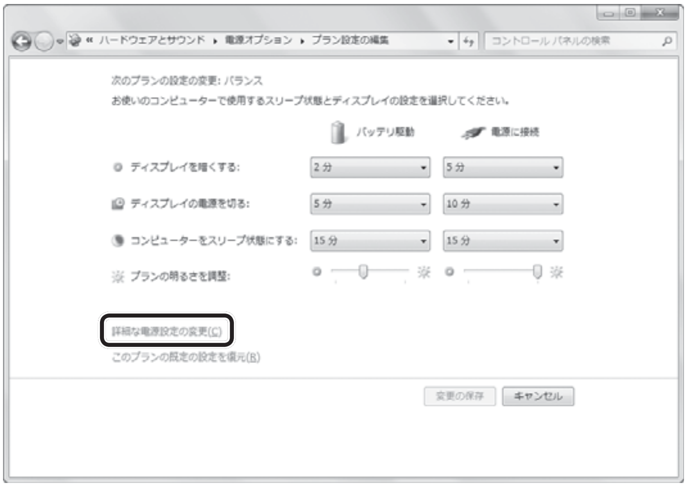
［プラン設定の変更］は、各電源プランの右端に表示されています。選択している電源プランの［プラン設定の変更］をタッチしてください。



（表示例）

ハイブリッド スリープの設定は、電源プランごとに必要です。
［プラン設定の編集］画面が表示されます。

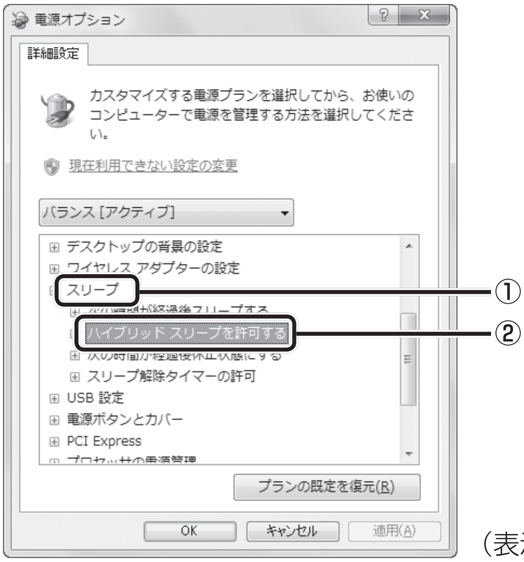
3 ［詳細な電源設定の変更］をタッチする



（表示例）

［詳細設定］画面が表示されます。

4 ［スリープ］をダブルタッチし①、表示される項目から［ハイブリッドスリープを許可する］をダブルタッチする②



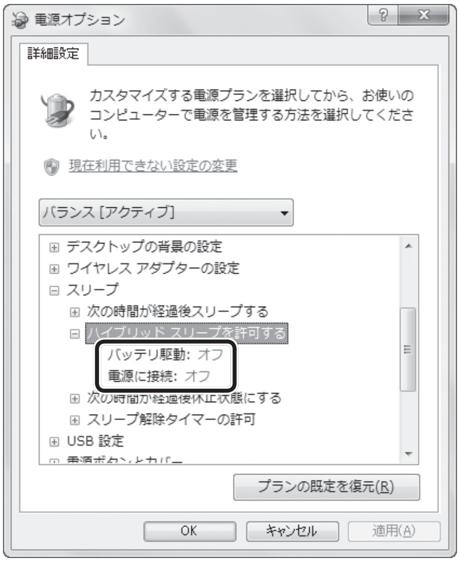
（表示例）

5 ハイブリッド スリープをONにしたい項目（[バッテリ駆動］／［電源に接続]）をタッチする

それぞれの項目は、次のようになります。

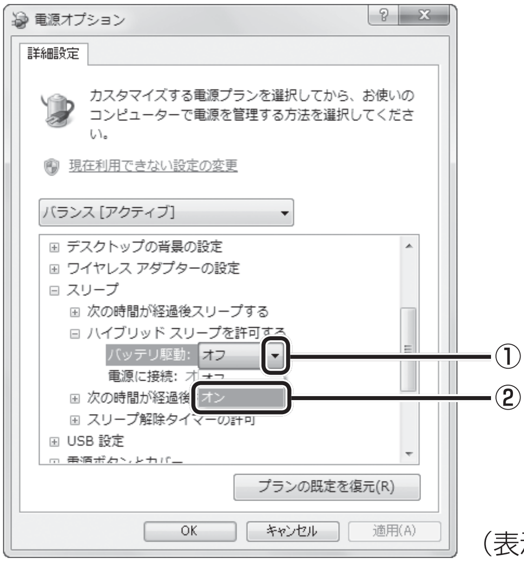
［バッテリ駆動］：バッテリー駆動時の、ハイブリッド スリープ機能のON／OFFを設定できます。

［電源に接続］　：電源に接続してるときの、ハイブリッド スリープ機能のON／OFFを設定できます。



（表示例）

6 項目の横に表示された ▾ をタッチし①、表示されたメニューから［オン］をタッチする②



（表示例）

7 ［OK］ボタンをタッチする

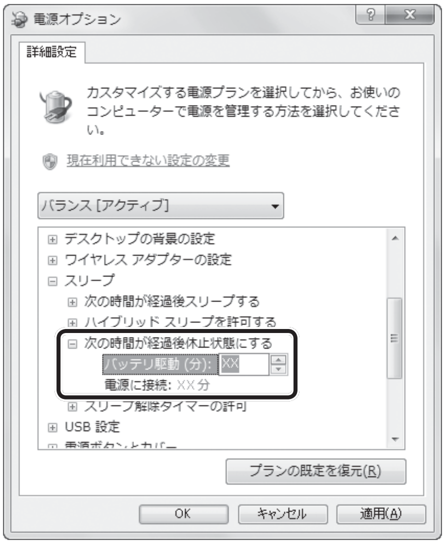
これでハイブリッド スリープを有効にする設定は完了です。
この状態でスリープを実行すると、ハイブリッド スリープとして機能します。

役立つ操作集

一定時間の経過後、休止状態にする

スリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するよう設定できます。
［詳細設定］画面で［次の時間が経過後休止状態にする］をダブルタッチし、表示された項目を選択して ▲ ▼ で時間を設定してください。
スリープを実行してから設定した時間が経過すると、自動的に休止状態に移行します。

参照 休止状態「本節 3 休止状態」



（表示例）

3 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態を内蔵フラッシュメモリに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合は、休止状態ではなく、必ず電源を切ってください。

1 休止状態の実行方法

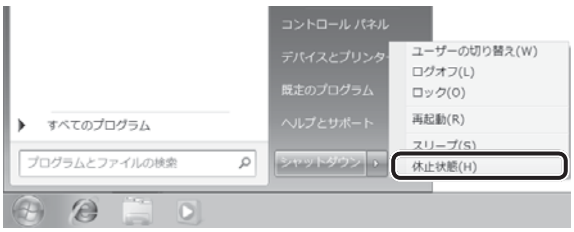
1 ［スタート］ボタン（ ）をタッチし①、 をタッチする②



（表示例）

2 表示されたメニューから［休止状態］をタッチする

メニューが表示されない場合は、 をタッチしてください。



（表示例）

休止状態から復帰させるときは、電源スイッチをオリエンテーションロックボタン側にスライドしてください。

メモ

- 「TOSHIBA Flash Cards」を使って、休止状態を実行することもできます。

参照 TOSHIBA Flash Cards「本章 4「TOSHIBA Flash Cards」について」

4 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

［スタート］メニューから操作しないでパソコン本体の電源スイッチをオリエンテーションロックボタン側にスライドしたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスリープ／休止状態にすることができます。

1 パソコン本体の電源スイッチをスライドしたときの動作の設定

1 **［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をタッチする**

2 **［ システムとセキュリティ］をタッチする**

3 **［ 電源ボタンの動作の変更］をタッチする**

4 **［電源ボタンを押したときの動作］で［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する**

［何もしない］に設定すると、特に変化はありません。
「バッテリ駆動」時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。

5 **［変更の保存］ボタンをタッチする**

パソコン本体の電源スイッチをオリエンテーションロックボタン側にスライドすると、手順 4 で設定した状態へ移行します。

3 タッチでパソコンを操作する

1 Tablet Keyboard

「TOSHIBA Desk Band」で［Tablet Keyboard］アイコン（ ）をタッチすると、画面にキーボードが表示されます。

参照 TOSHIBA Desk Bandについて『取扱説明書』

表示されるキーボードには、用途に合わせて６種類のパターンがあります。
右上の［切り替え］アイコン（ ）をタッチすると、別の種類のキーボードを表示します。

４種類目と５種類目は、画面の両端にキーボードが表示されます。
それ以外のキーボードは画面の中央に表示されます。
画像は表示例です。入力方法の変更などにより、キーの表示が変わります。

■１種類目



■２種類目



■３種類目



■４種類目



■５種類目



■６種類目



ボタンについて

キーボード上部のボタンは次の機能があります。

	カット	選択している文字を切り取ります。
	コピー	選択している文字をコピーします。
	ペースト	カーソルの位置へ、直前にカット、またはコピーした文字を貼り付けます。
	設定	「Tablet Keyboard」の設定画面が表示されます。
	切り替え	キーボードの種類を切り替えます。

かな入力について

「ローマ字入力」と「かな入力」の2種類の入力方法に変更することができます。
購入時の「ローマ字入力」から、「かな入力」に変更する代表的な方法を説明します。

1 3種類目のキーボードを表示する

2 「IMEツールバー」の入力モードをタッチして、［ひらがな］をタッチする

3 ［ALT］キーをタッチし、［カナかな］キーをタッチする

「かな入力」に変更するメッセージが表示されます。

4 ［はい］をタッチする

キーボードのキーが「かな入力」用に切り替わります。

「ローマ字入力」に戻すには、もう一度手順 1 ～ 4 の操作を行ってください。

ヘルプの起動方法

1 「Tablet Keyboard」の表示後、［設定］ボタン（ ）をタッチする

「Tablet Keyboard」の設定画面が表示されます。

2 ［ヘルプ］ボタン（ ）をタッチする

2 タッチでウィンドウを操作したい

「TOSHIBA Easy Menu」は、デスクトップに表示されているウィンドウを、呼び出したメニュー画面で操作することができます。

操作方法

1 操作したいウィンドウを最前面にする

2 ウィンドウのタイトルバーをタッチする

「TOSHIBA Easy Menu」の操作メニュー画面が表示されます。



	ウィンドウを最小化します。
	ウィンドウを最大化します。
	ウィンドウを閉じます。
	ウィンドウを移動します。アイコンをタッチし、そのまま画面を移動したい方向にドラッグします。
	ウィンドウの横幅を変更します。アイコンをタッチし、そのまま左右にドラッグします。
 	ウィンドウのサイズを変更します。アイコンをタッチし、そのまま斜め方向にドラッグします。
	ウィンドウの縦幅を変更します。アイコンをタッチし、そのまま上下にドラッグします。

設定方法

1 ［スタート］ボタン（）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Tablet Easy Control Settings］をタッチする

「TOSHIBA Easy Menu」の設定画面が表示されます。

設定画面では、「TOSHIBA Easy Menu」の有効／無効と、ヘルプの起動を行うことができます。

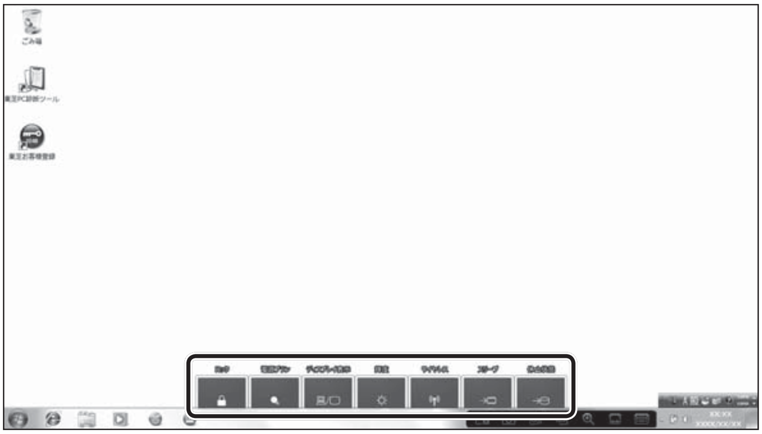
4 「TOSHIBA Flash Cards」について

「TOSHIBA Flash Cards（トウシバ フラッシュ カーズ）」は、デスクトップ上にカードのように表示されるアイコンを選択し、それぞれのカードに割り当てられている機能を設定・実行することができます。

操作方法

1 「TOSHIBA Desk Band」の をタッチする

次のように「TOSHIBA Flash Cards」が表示されます。



（表示例）

2 設定したい機能のカードをタッチする

カードとアイコンが表示されます。

3 表示されたアイコンのうち、設定したい項目をタッチする

タッチしたアイコンの機能に設定されます。

「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプの起動方法

「TOSHIBA Flash Cards」の詳細は、「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプを参照してください。

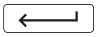
1 [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [Flash Cards] をタッチする

[Flash Cardsの設定] 画面が表示されます。

2 [ヘルプ] ボタンをタッチする

「TOSHIBA Flash Cards」を使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。表示されたカードのアイコンをタッチすると、いろいろな操作が実行できます。

カード	内容
［ロック］のカード  	コンピューターをワークステーションロック状態にします。 解除するには、ユーザー名をタッチしてください。Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、画面上のキーボードでパスワード入力欄にWindowsのログオンパスワードを入力し、をタッチしてください。
［電源プラン］のカード  	表示されたアイコンをタッチすると電源プランが切り替わります。 をタッチすると、設定されている電源プランが「eco」に設定されます。
［ディスプレイ表示］のカード  	表示されたアイコンをタッチすると表示装置が切り替わります。 参照 「4章 3 - 2 - 2 方法2 -「TOSHIBA Flash Cards」を使う」
［輝度］のカード  	表示される画面のスライダーバーで輝度の状態を確認できます。スライダーバーのつまみを左へドラッグすると、本体液晶ディスプレイの輝度が下がります。また、スライダーバーのつまみを右へドラッグすると、本体液晶ディスプレイの輝度が上がります。

カード	内容
［ワイヤレス］のカード 	表示されたアイコンをタッチすると使用する無線LAN、Bluetooth＊1のON／OFFを切り替えます。
［スリープ］のカード 	をタッチすると、スリープ機能が実行されます。
［休止状態］のカード 	をタッチすると、休止状態になります。

＊1 Bluetooth機能搭載モデルのみ

5 内蔵フラッシュメモリ

本製品には、内蔵フラッシュメモリが搭載されています。
内蔵フラッシュメモリは、取りはずしできません。
USB 接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い **操作にあたって**

- パソコンを激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- あらかじめ、「付録 1 - 4 内蔵フラッシュメモリについて」を確認してください。

内蔵フラッシュメモリに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。
万が一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

参照 バックアップ「1 章 2 バックアップをとる」

6 画面を見やすく調整する
－ディスプレイ－

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイを搭載しています。
外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

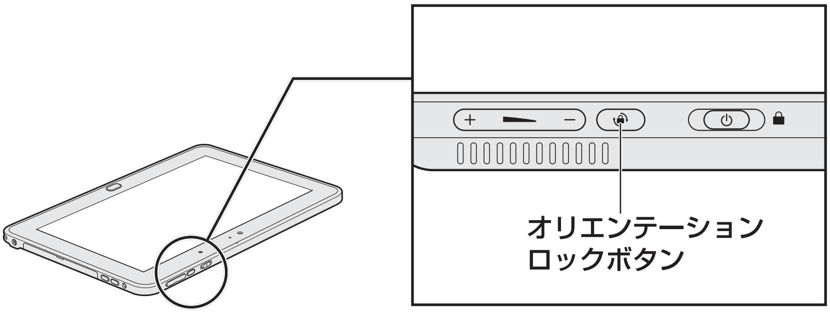
1 画面の向きを設定する

本製品は、使用するときの状態に合わせて、画面表示の向きも自動的に切り替わるように設定されています。

自動的に画面の向きを切り替えず、固定の状態で使いたい場合は、次のように設定してください。

1 オリエンテーションロックボタンを押す

固定したい角度に表示している状態で実行してください。



固定を解除したい場合は、もう一度ボタンを押してください。

メモ

- アプリケーションによっては、画面を縦にした状態では適切に動作しない場合があります。その場合は、画面を横にした状態で使用してください。

2 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。輝度は「1～100」の100段階で設定ができます。

❑ 輝度の調整方法

1 「TOSHIBA Desk Band」の  をタッチする

2 ［輝度］のカードをタッチする

3 表示された画面のスライダーバーのつまみを左右にドラッグして、輝度を調節する



画面に表示されるスライダーバーのつまみの位置と「レベル×」の表示で輝度の状態を確認できます。
スライダーバーのつまみを左へドラッグすると、本体液晶の輝度が下がります。
スライダーバーのつまみを右へドラッグすると、本体液晶の輝度が上がります。

7 サウンド

1 スピーカーの音量を調整する

スピーカーの音量は、次の方法で調整できます。

1 [－]または[＋]ボタンで調整する

1 音量を小さくしたいときは音量小ボタン（[－]）、大きくしたいときは音量大ボタン（[＋]）を押す

音量小ボタン（[－]）を押すたびに音量が小さくなり、音量大ボタン（[＋]）を押すたびに音量が大きくなります。

2 音量ミキサーから調整する

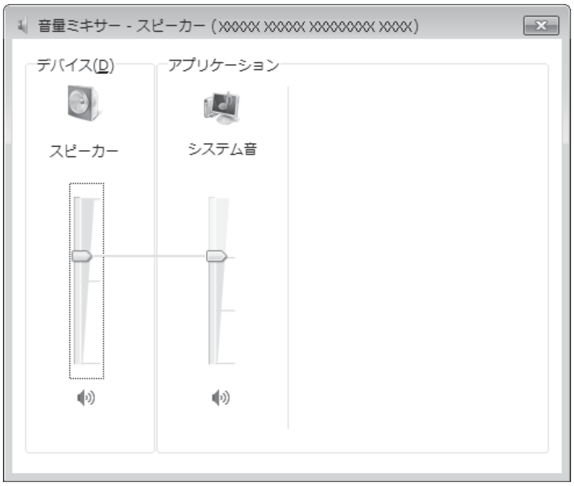
1 ［スタート］ボタン（　）→［コントロールパネル］をタッチする

2 ［　ハードウェアとサウンド］→［　システム音量の調整］をタッチする

［音量ミキサー］画面が表示されます。

3 各項目でつまみの上下をタッチして調整する

［ミュート］ボタン（　）をタッチすると消音（ミュート）になります。



（表示例）

❑ 音楽／音声を再生するとき

音量ミキサーの各項目では、次の音量が調整できます。

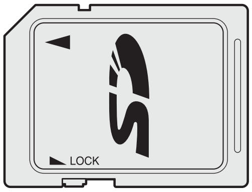
スピーカー	スピーカーの音量を調整します。
システム音	Windowsのプログラムイベント（Windowsの終了、システムエラーなどの動作）で再生されるサウンド設定の音量を調整します。

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは、『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

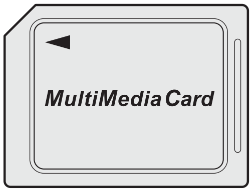
8 いろいろなメディアカードを使う
－ブリッジメディアスロット－

本製品では次のメディアカードをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

- SDメモリカード*1
  （以降、SDHCメモリカード*1、
  SDXCメモリカード*1を含みます。）

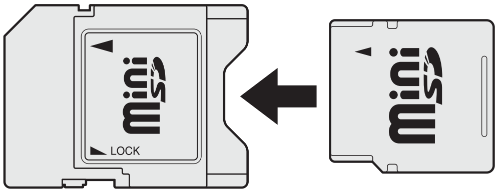


- マルチメディアカード

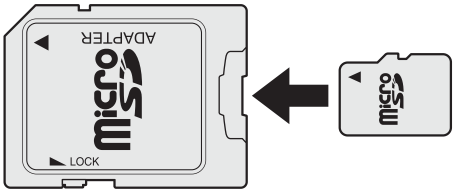


次のSDメモリカードは、市販のアダプターを装着すると、本製品のブリッジメディアスロットでも使用できます。必ずアダプターを装着した状態でご使用ください。

- miniSDメモリカード*1
  （以降、miniSDHCメモリカード*1を含みます。）
  SDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプターを使用します。



- microSDメモリカード*1
  （以降、microSDHCメモリカード*1を含みます。）
  SDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターを使用します。



＊1 著作権保護技術CPRMに対応していません。

アダプターの装着や使用方法は、『SDメモリカードに付属の説明書』を確認してください。

本書では、特に区別して説明する場合を除き、SDメモリカード、miniSDメモリカード、microSDメモリカードを「SDメモリカード」と呼びます。

メディアカードで使用できる容量については『＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

コンパクトフラッシュメモリカードなどは使用できません。

1 メディアカードを使う前に

お願い メディアカードの使用にあたって

- あらかじめ、「付録 2 - 1 メディアカードを使うにあたって」を確認してください。

新品のメディアカードは、メディアカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、メディアカードを使えるようにすることです。
フォーマットされていないものを購入した場合や再フォーマットをする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

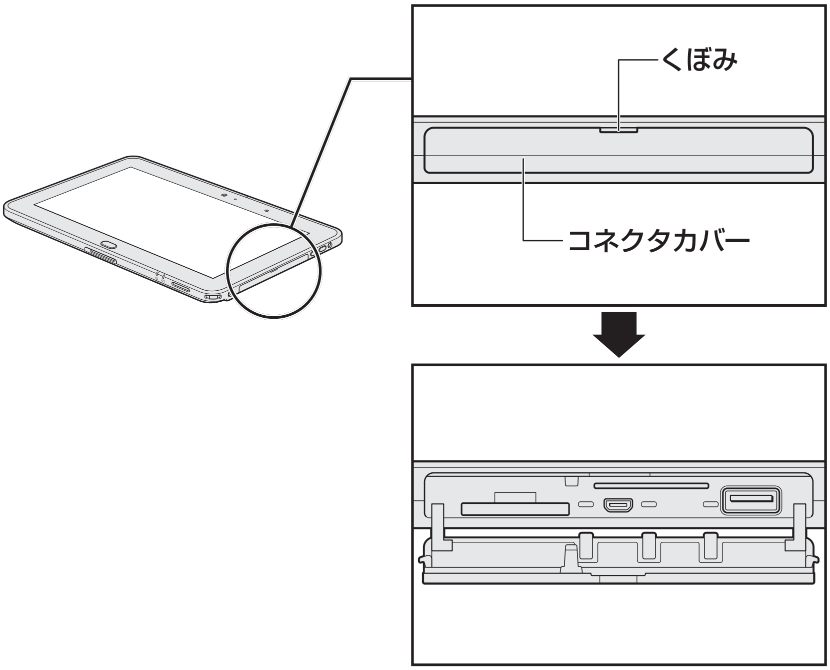
2 メディアカードのセットと取り出し

お願い 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 2 - 1 - 1 メディアカードの操作にあたって」を確認してください。

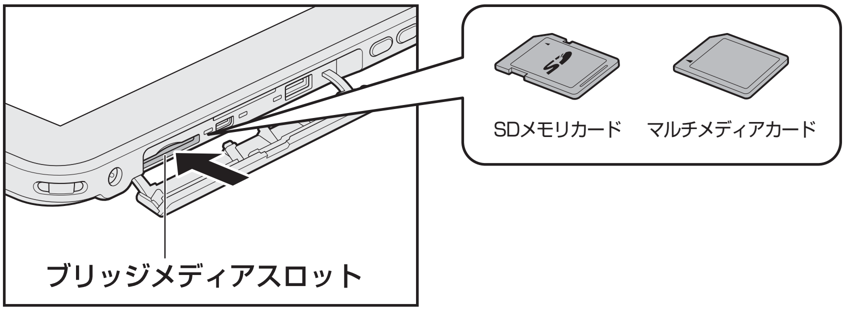
1 セットする

1 コネクタカバーのくぼみに指をかけて、コネクタカバーをはずす



2 メディアカードの表裏を確認し、表を上にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

奥まで挿入します。



お願い

- miniSDメモリカード、microSDメモリカードは、SDメモリカードサイズのアダプターが必要です。
  アダプターを使用しないで直接挿入すると、取り出せなくなります。

2 セットしたメディアカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コンピューター］をタッチする

［コンピューター］画面が表示されます。

2 メディアカードのアイコンをダブルタッチする

以下の名称は表示の一例です。異なる名称が表示される場合があります。

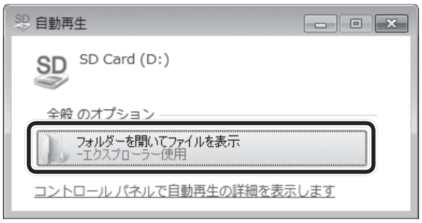
SDメモリカード　　：セキュリティで保護された記憶域デバイス、SD Card
マルチメディアカード：リムーバブルディスク、MMC Card

（表示例）

セットしたメディアカードの内容が表示されます。

メモ

- メディアカードによっては、ブリッジメディアスロットにセットすると、自動的に内容が表示されたり、メディアカードに対する操作を選択する画面が表示される場合があります。選択画面が表示されたときは、［フォルダーを開いてファイルを表示］を選択してください。



（表示例）

3 取り出す

メディアカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。
ウィンドウやファイルを閉じてから、操作を行ってください。

1 メディアカードの使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（ ）をタッチする

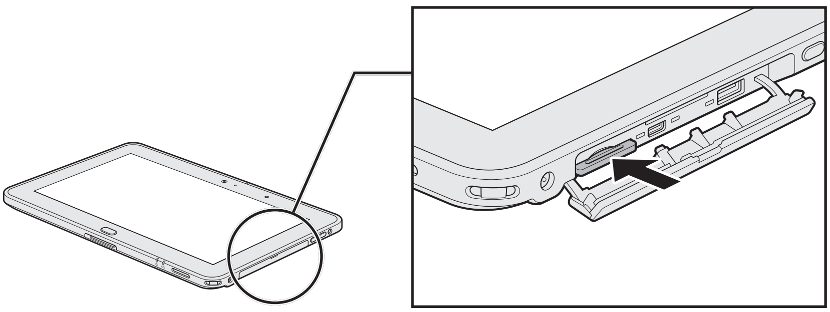
＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をタッチしてください。



②表示されたメニューから取り出すメディアカードの項目をタッチする

③「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をタッチする

2 メディアカードを押す

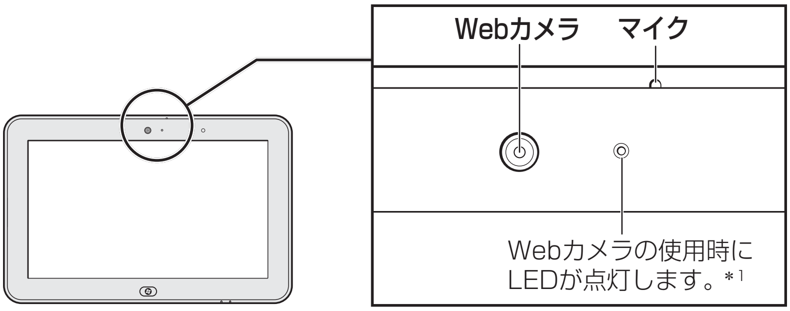


カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

9 Webカメラを使う

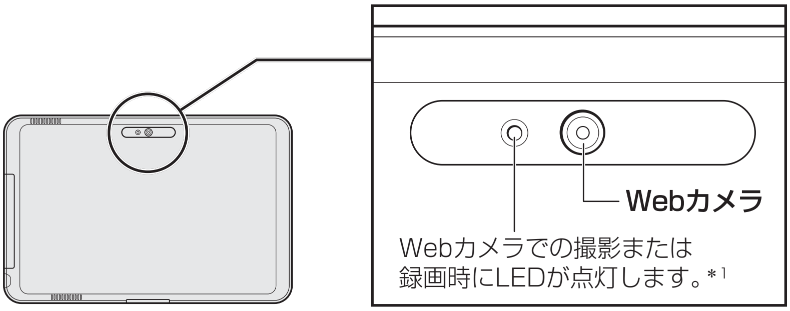
本製品には、「Webカメラ」が搭載されています。
専用のアプリケーションを使うと、インターネット経由で映像を送ったり、ビデオチャットを行ったりできます。
Webカメラは前面と背面の両方についているので、どちらからでも写真や動画を撮影することができます。

■ Webカメラ（前面）



＊1 前面のWebカメラを使用するときのみ点灯します。

■ Webカメラ（背面）



＊1 背面のWebカメラを使用するときのみ点灯します。

お願い Webカメラについて

- Webカメラに保護シートが貼ってある場合には、Webカメラを使用する前に、必ず保護シートをはがしてください。
- あらかじめ、「付録 1 - 5 Webカメラについて」を確認してください。

1 Webカメラのアプリケーションについて

本製品には、Webカメラ用のアプリケーションが用意されています。

お願い

- Aeroモードで「東芝ウェブカメラアプリケーション」を使用中に、画面の配色がWindows 7ベーシックに変換されたときは、「東芝ウェブカメラアプリケーション」をいったん終了し、再度起動してください。Aeroモードに戻ります。
  Aeroモードとは「Aero デスクトップ エクスペリエンス」のことです。

1 起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［マルチメディア］→［ウェブカメラアプリケーション］をタッチする

「東芝ウェブカメラアプリケーション」が起動します。

2 写真や動画を撮影する

「東芝ウェブカメラアプリケーション」の画面に表示される各ボタンの概要は、次のようになっています。

- **［写真撮影］ボタン**
  画面に映っている画像を、写真として撮影します。
- **［ビデオ録画］ボタン**
  画面に映っている画像を、映像として録画します。
- **［アルバム］ボタン**
  撮影、録画したファイルの一覧を表示します。
- **［設定］ボタン**
  撮影した画像や映像の保存先や、保存形式、映像品質を設定できます。
- **［カメラ切替］ボタン**
  本製品に搭載されたWebカメラの前面と背面のカメラを切り替えます。
- **［解像度］ボタン（ ）**
  画面左上にあります。
  ボタンを押すと、解像度を変更できます。
- **［フラッシュLED］ボタン（ ）**
  画面左上にあります。
  ボタンを押すと、使用しているWebカメラのLEDのON／OFFが切り替わります。

詳しくは、「東芝ウェブカメラアプリケーション」のヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

1 「東芝ウェブカメラアプリケーション」を起動後、［ヘルプ］ボタン（ ? ）をタッチする

3章

ネットワークの世界へ

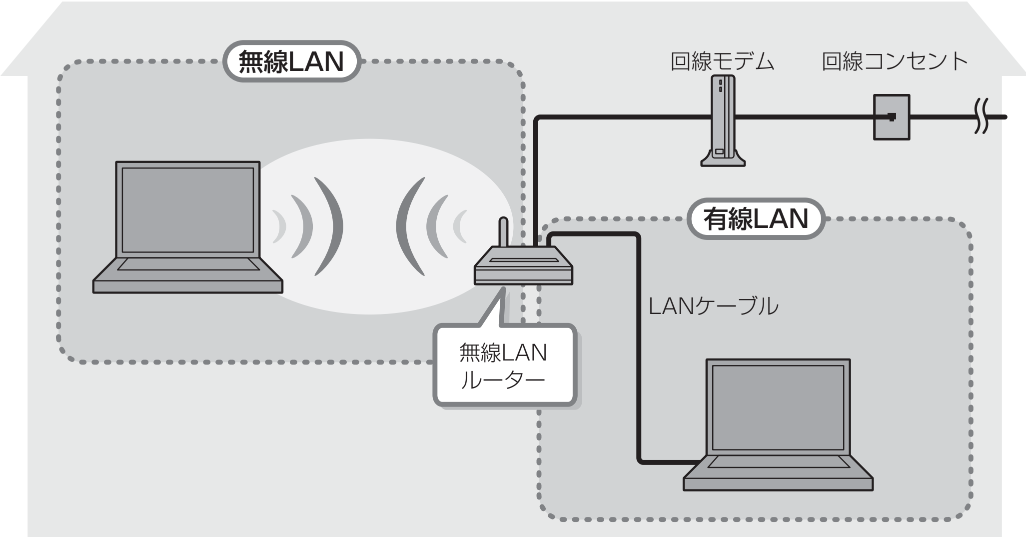
本製品に搭載されている通信に関する機能を説明しています。
ネットワークやほかのパソコンと通信する方法について紹介します。

1 ネットワークで広がる世界

会社や家庭でそれぞれ自分専用のパソコンを持っている場合、1つのプリンターを共有したいときや、インターネット接続を使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

1 LAN接続はこんなに便利

会社や家庭でそれぞれが自分専用のパソコンを持っている場合や、ひとりで複数のパソコンを持っている場合など、複数のパソコンがあるときは、LAN（ラン）（Local Area Network）を使うと便利です。
LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。



（接続例）

■無線LAN

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続していない状態でもネットワークに接続できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルーターの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピューターをLANシステムに接続できます。
無線LANルーターや無線LANアクセスポイント（市販）を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。
ネットワークに接続したあとに、ファイルの共有の設定や、ネットワークに接続しているプリンターなどの機器の設定を行う必要があります。ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定方法の詳細は、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をタッチして、「Windows ヘルプとサポート」を参照してください。
ネットワークに接続している機器の設定は、各機器に付属の説明書を確認してください。
また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 ワイヤレス（無線）LANを使う

1 無線LANモジュールの確認

使用しているパソコンに搭載された無線LANモジュールの種類は、「ConfigFree（コンフィグフリー）」を使って確認できます。

参照 「本項 2 - 役立つ操作集 - ConfigFree」

1 通知領域の［ConfigFree］アイコン（ ）をタッチする

＊ 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をタッチしてください。

2 表示されたメニューでアダプター名を確認する

アダプター名が示すモジュールは、それぞれ次のようになります。

- **「Intel(R) Centrino(R) Wireless-N 6150」、または「Intel(R) Centrino(R) WiMAX 6150 Function Driver」の場合**
  IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11nに対応したモジュールです。また、IEEE802.16e-2005 に準拠しています。
  このモジュールを、「Intel b/g/n-WiMAX モジュール」と呼びます。
  ＊ このモジュールは、WiMAXに対応しています。
- **「Intel(R) Centrino(R) Wireless-N 1030」の場合**
  IEEE802.11bおよびIEEE802.11gに対応したモジュールです。
  このモジュールを、「Intel b/gモジュール」と呼びます。
- **「Atheros AR946x Wireless Network Adapter」の場合**
  IEEE802.11a（W52/W53/W56）、IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11nに対応したモジュールです。
  このモジュールを、「AR5B22 a/g/nモジュール」と呼びます。
- **「Atheros AR9485WB-EG Wireless Network Adapter」の場合**
  IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11nに対応したモジュールです。
  このモジュールを、「AR5B225 b/g/nモジュール」と呼びます。
- **「Atheros AR9002WB-1NG Wireless Network Adapter」の場合**
  IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11nに対応したモジュールです。
  このモジュールを、「WB195 b/g/nモジュール」と呼びます。

その他の本製品の無線LANモジュールの仕様については、『取扱説明書』と『＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

メモ

- Wi-Fi準拠、WPA/WPA2対応、128bit WEP対応、256bit AES対応、TKIP対応。

2 無線LANを使ってみよう

⚠警 告

- **心臓ペースメーカーを装着している方は、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定した上で、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
  - ・無線通信機能は、「TOSHIBA Flash Cards」の［ワイヤレス］のカードで無効にすることができます。［ワイヤレス］のカードをタッチして、表示されたアイコン群から をタッチしてください。
  - ・スリープや休止状態では、パソコンが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  - ・電源を切った状態でもパソコンが自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効に（解除）してください。

お願い

- あらかじめ、「付録 1 - 6 無線LANについて」を確認してください。
- 『安心してお使いいただくために』に、セキュリティに関しての注意事項や使用上の注意事項を説明しています。
  無線LANを使用する場合は、その記述を読んで、セキュリティの設定を行ってください。

1 「TOSHIBA Flash Cards」で［ワイヤレス］のカードの アイコンをタッチしてONに切り替える

以降の無線の設定方法には、次の2種類があります。

- 「ConfigFree」を使う
- Windows標準機能を使う

「ConfigFree」を使って設定する場合は、「本項 2 - 役立つ操作集 - ConfigFree」を参照してください。
また、Windows標準機能を使って設定する場合は、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をタッチして、「Windows ヘルプとサポート」を参照してください。

役立つ操作集

ConfigFree

本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、近隣の無線LANデバイスを検出したり、LANケーブルをはずすと自動的に無線LANに切り替えるなど、ネットワーク設定に便利な機能が使えます。
詳しくは、「ファーストユーザーズガイド」をご覧ください。
「ConfigFree」は、コンピューターの管理者のユーザーアカウントで使用してください。

- **ファーストユーザーズガイドの起動方法**
  ① 通知領域の［ConfigFree］アイコン（ ）をプレス アンド ホールドして表示されたメニューから、［ヘルプ］をタッチする
  通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をタッチしてください。
- **「ConfigFree」の起動方法**
  「ConfigFree」は、Windows を起動すると自動的に起動し、通知領域に［ConfigFree］アイコン（ ）が表示されています。通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をタッチしてください。
  「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。
  ① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［ConfigFree］→［ConfigFree トレイ］をタッチする

メモ　Windowsのログオン画面で、無線LANの状態を確認する（「東芝無線LANインジケーター」）

- 無線LANの設定を行い、無線LANネットワークに接続可能な状態の場合、Windowsのログオン画面に［東芝無線LANインジケーター］画面が表示されます。この画面で、現在の無線LANの状態を確認することができます。
  また、無線LANネットワークに接続可能な状態ではない場合は、Windowsのログオン画面に「東芝無線LANインジケーター」のアイコン（ ）のみが表示されます。このアイコンをタッチすると、［東芝無線LANインジケーター］画面を表示することができます。
  なお、「東芝無線LANインジケーター」は、表示方法を変更することができます。［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［無線LANインジケーター - 設定］をタッチして表示される、［東芝無線LANインジケーター - 設定］画面で設定を変更してください。
- 「東芝無線LANインジケーター」は、購入時の状態ではインストールされていません。
  次の手順でインストールしてください。
  ① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をタッチする
  ② ［セットアップ画面へ］をタッチする
  ③ 画面のメッセージに従ってインストールする
  ［ユーティリティ］タブに［TOSHIBA Wireless LAN Indicator］の項目が用意されています。

3 セキュリティの設定

無線LAN機能を使用する場合、セキュリティ設定を行うことをおすすめします。
セキュリティの設定を行っていない場合、さまざまな問題が発生する可能性があります。

参照 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意
『安心してお使いいただくために』

これらの問題に対応するためには、無線アクセスポイントとパソコンの双方で通信データの暗号化などのセキュリティが必要になります。
本製品には、無線LANを使用するにあたっての問題に対応するためのセキュリティ機能が用意されています。
次のセキュリティ設定を行い、セキュリティ機能を有効にして本製品を使用すれば、それらの問題が発生する可能性を低くすることができます。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をタッチする

2 ［ インターネットへの接続］をタッチ→［ワイヤレス］をタッチする

現在のワイヤレスネットワークへの接続状態が表示されます。

3 画面右下の［ワイヤレスネットワーク接続］画面で、接続したいアクセスポイント名をタッチする

4 ［自動的に接続する］をチェックし、［接続］ボタンをタッチする

5 ［ネットワークに接続］画面で必要なネットワークセキュリティ情報を入力し、［OK］ボタンをタッチする

選択する項目、データ暗号化の方式、ネットワーク キーの詳細は、『無線アクセスポイントに付属の説明書』を確認のうえ、正しく設定してください。正しく設定していない場合、無線アクセスポイントに接続できない場合があります。

2 Bluetooth機能

＊ Bluetooth機能搭載モデルのみ

Bluetoothワイヤレステクノロジーは、パソコンや周辺機器、携帯電話などの機器どうしで無線でデータをやりとりできる、世界標準の通信方式です。
Bluetoothワイヤレステクノロジーを搭載した機器であれば、お互いに通信相手を登録することで、簡単にデータのやりとりができます。
詳しくは、『Bluetoothユーティリティユーザーズガイド』を参照してください。

参照 起動方法「本節 1 - Bluetoothユーティリティユーザーズガイドの起動方法」

お願い Bluetooth機能の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 Bluetoothについて」を確認してください。

メモ

- Bluetoothのバージョンによっては本製品と通信できないBluetooth対応機器があります。本製品では、Bluetooth Version 1.1、1.2、2.0、2.0+EDR、2.1、2.1+EDR、3.0、3.0+HSのBluetooth対応機器と通信ができます。
- 2.4GHz帯の無線LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

1 Bluetooth通信が可能な状態にする

⚠ 警 告

- **心臓ペースメーカーを装着している方は、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定した上で、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
  - ・無線通信機能は、「TOSHIBA Flash Cards」の［ワイヤレス］のカードで無効にすることができます。［ワイヤレス］のカードをタッチして、表示されたアイコン群から  をタッチしてください。
  - ・スリープや休止状態では、パソコンが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  - ・電源を切った状態でもパソコンが自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効に（解除）してください。

1 「TOSHIBA Flash Cards」で［ワイヤレス］のカードの アイコンをタッチしてONに切り替える

初めて起動したときは、Bluetooth用ドライバーのインストールが始まります。インストールが終了するまでお待ちください。
「Bluetooth Manager」が起動し、周辺のBluetooth対応機器を検索する［自動登録］画面が表示されます。すぐにBluetooth対応機器を登録する必要がない場合は、［キャンセル］ボタンをタッチしてください。
無線LAN（Wireless LAN）と同時に使用する際の［注意］画面が表示された場合は、内容を確認のうえ、［OK］ボタンをタッチして画面を閉じてください。
通知領域に［Bluetooth Manager］アイコン（ ）が表示されます。以降、通知領域に常駐し、次回Windows を起動したときには自動的にアイコンが表示されます。
［Bluetooth Manager］アイコン（ ）はサービスの状態によって表示が異なります。詳しくは、『Bluetooth ユーティリティユーザーズガイド』を確認してください。
Bluetoothの電源が入っていない場合には、［Bluetooth Manager］アイコン（ ）をプレス アンド ホールドして表示されたメニューから、［Bluetoothオン］を選択して電源を入れてください。

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をタッチしてください。

Bluetooth機能搭載モデルには、ほかのBluetooth対応機器と通信するためのユーティリティとして「Bluetoothユーティリティ」がプレインストールされています。
初めてBluetoothを使うときには、ユーティリティの設定が必要になります。設定方法や通信する方法については、『Bluetoothユーティリティユーザーズガイド』をご覧ください。

Bluetooth ユーティリティユーザーズガイドの起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［Bluetooth］→［Bluetoothユーザーズガイド］をタッチする

4章

周辺機器を使って機能を広げよう

パソコンでできることをさらに広げたい。
そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。
本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の紹介と、よく使う周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、パソコンが持っていない機能を広げることができます。
周辺機器は、パソコン本体の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつなぎます。

本製品のインターフェースに合った周辺機器をご利用ください。
周辺機器によっては、インターフェースなどの規格が異なることがあります。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。
購入される際には、目的に合った機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。
周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカーに確認してください。

参照 コネクタの仕様について「付録 5 各インターフェースの仕様」

お願い **周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって**

- あらかじめ、「付録 1 - 9 周辺機器について」を確認してください。

次の周辺機器が使用できます。

- USB対応機器
- テレビ
- 外部ディスプレイ
- ヘッドセット
- ヘッドホン
- ポート拡張クレードル

参照「本章 2 以降」

2 USB対応機器を使う

USB(ユーエスビー)対応機器は、電源を入れたまま取り付け／取りはずしができます。
また、新しい周辺機器を接続すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。
USB対応機器には次のようなものがあります。

- USB対応マウス
- USB対応キーボード
- USB対応プリンター
- USB対応スキャナー
- USBフラッシュメモリ

など

本製品のUSBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。
USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い USB対応機器の操作にあたって

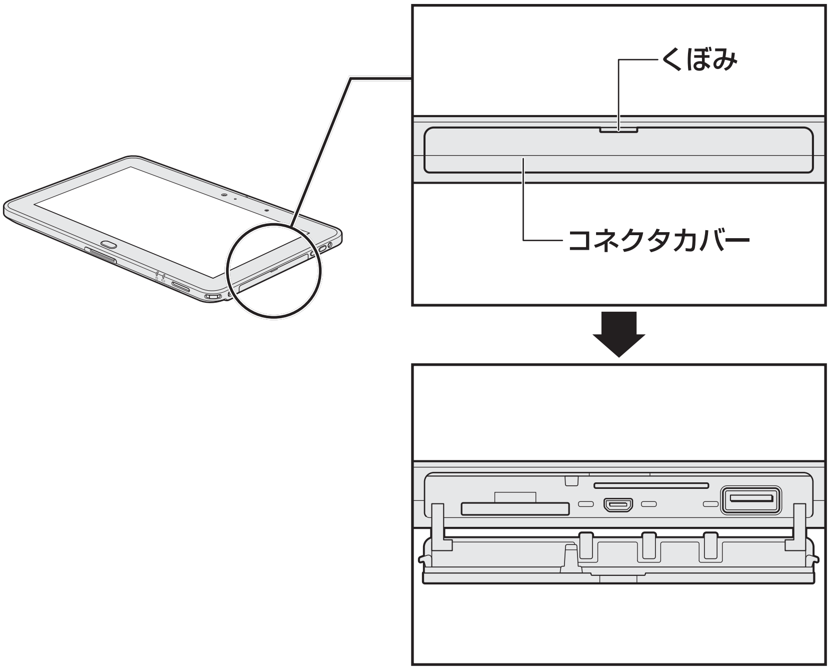
- あらかじめ、「付録 1 - 9 - USB対応機器の操作にあたって」を確認してください。

1 取り付け

1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

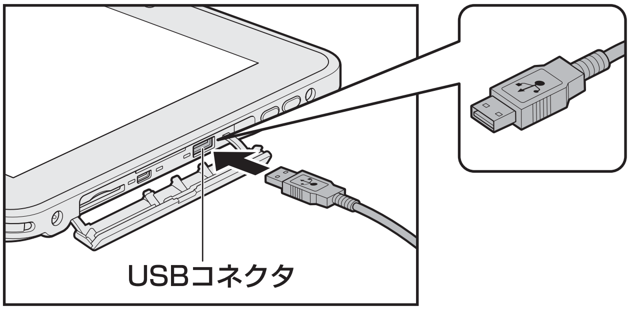
この手順が必要ない機器もあります。USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 コネクタカバーのくぼみに指をかけて、コネクタカバーをはずす



3 USBケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。



2 取りはずし

1 USB対応機器の使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（ ）をタッチする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をタッチしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないUSB対応機器は、次の手順は必要ありません。
手順 **2** に進んでください。



②表示されたメニューから取りはずすUSB対応機器の項目をタッチする

③「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をタッチする

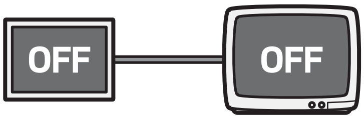
2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

3 テレビ／外部ディスプレイの接続

本製品とテレビ／外部ディスプレイをＨＤＭＩ（エイチディーエムアイ）ケーブルで接続すると、画面にWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。
HDMI出力端子は、音声もテレビに出力することができます。
パソコンで視聴／再生している映像などもテレビ／外部ディスプレイに表示させることができます。

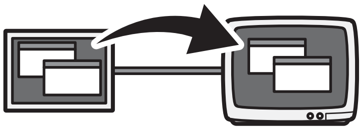
パソコン本体と、テレビ／外部ディスプレイを接続する

参照 「本節 1 パソコンに接続する」



パソコンの画面をテレビ／外部ディスプレイに表示する設定をする

参照 「本節 2 表示を切り替える」



お願い テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 9 - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」を確認してください。

■接続の前に

テレビ／外部ディスプレイを接続するときは、『テレビ／外部ディスプレイに付属の説明書』もあわせて確認してください。
HDMI端子があるテレビ／外部ディスプレイを接続できます。

ケーブルについて

HDMIケーブルは、市販のもので、本製品に接続する側がmicroHDMIタイプのプラグのものを使用してください。
接続するテレビ／外部ディスプレイ側のプラグについては、『テレビ／外部ディスプレイに付属の説明書』を確認してください。
HDMIケーブルは、HDMIロゴ（HDMI）の表示があるケーブルをご使用ください。

メモ

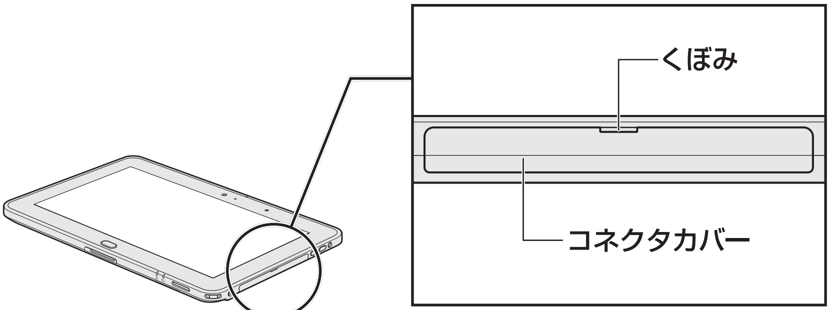
- 使用可能なテレビ／外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度にあったテレビ／外部ディスプレイを接続してください。
- テレビ／外部ディスプレイへの出力形式を設定する方法は、「本節 2 表示を切り替える」を参照してください。
- 著作権保護された映像などをテレビに表示するためには、HDCPに対応したテレビを接続してください。
- テレビ／外部ディスプレイを接続すると、画面表示が横になることがあります。元の向きで使用する場合は、再度パソコン本体の向きを変えてください。

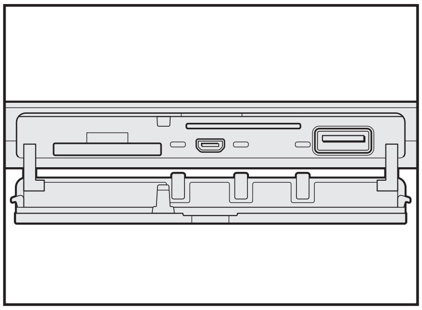
1 パソコンに接続する

1 HDMIケーブルのプラグをテレビ／外部ディスプレイのHDMI入力端子に差し込む

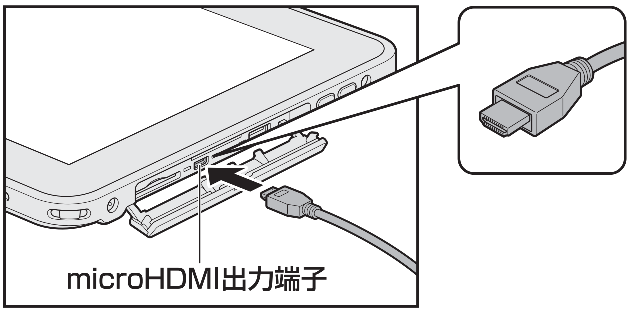
2 テレビ／外部ディスプレイの電源を入れる

3 コネクタカバーのくぼみに指をかけて、コネクタカバーをはずす





4 HDMIケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のmicroHDMI出力端子に差し込む



メモ

- HDMI接続で、テレビ／外部ディスプレイに映像を映しているとき、HDMIケーブルを抜いたあと、再度HDMIケーブルを接続する場合は５秒以上間隔をあけてください。

❑ 音声の出力をパソコン本体のスピーカーからテレビ／外部ディスプレイに切り替える

HDMIケーブルで接続したテレビ／外部ディスプレイから音声が出ない場合は、次の設定を行ってください。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をタッチする**

2 **［ ハードウェアとサウンド］→［ サウンド］をタッチする**

［サウンド］画面が表示されます。

3 **［再生］タブで［インテル（R）ディスプレイ用オーディオ］と説明がある項目を選択し、［既定値に設定］ボタンをタッチする**

4 **［OK］ボタンをタッチする**

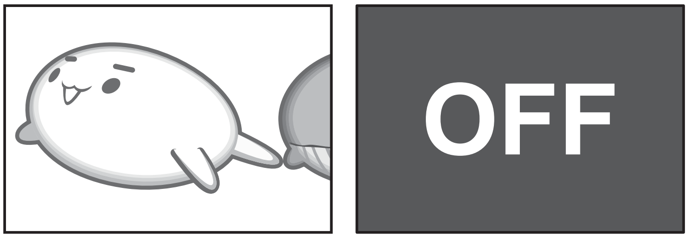
この設定を行うと、パソコン本体から音声が出力されなくなります。テレビ／外部ディスプレイを取りはずし、パソコン本体からの音声出力に戻す場合は、手順 3 で［スピーカー］を選択し、［既定値に設定］ボタンをタッチしてください。

2 表示を切り替える

テレビ／外部ディスプレイを接続した場合には、次の表示方法があります。
表示方法は、表示装置の切り替えを行うことで変更できます。

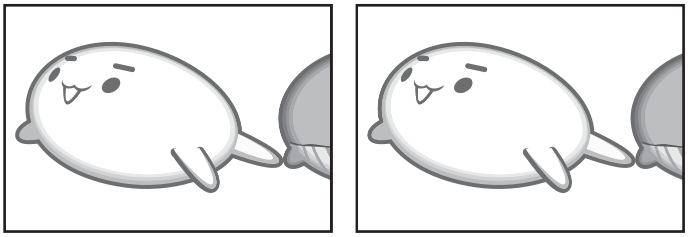
■ 本体液晶ディスプレイだけに表示またはテレビ／外部ディスプレイだけに表示

いずれかの表示装置にのみ、デスクトップ画面を表示します。

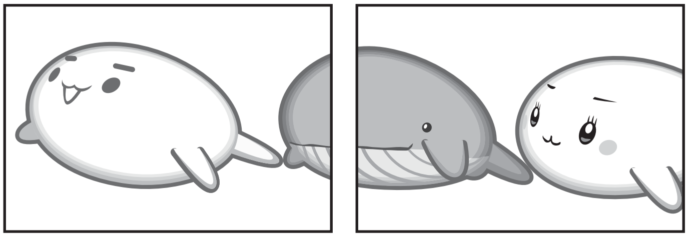


■本体液晶ディスプレイとテレビ／外部ディスプレイの同時表示

- **クローン表示**
  2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。



- **拡張表示***
  2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用（拡張表示）します。
  ＊拡張表示は、「Extended Desktop」と表示されることがあります。



テレビ／外部ディスプレイに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビ／外部ディスプレイには表示されません。

メモ

- テレビ／外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、同時表示の種類や設定に合った色数／解像度で表示されます。
- 表示を切り替えたとき、システムによって自動的に解像度が変更される場合があります。
  本体液晶ディスプレイだけに表示を切り替えると、元の解像度に戻ります。
- テレビ／外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、テレビ／外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。
- 映像を再生するアプリケーションで使用する表示装置を変更したい場合は、アプリケーションを起動する前に表示装置を切り替えてください。
  起動中は、表示装置を切り替えることができません。
- 著作権保護された映像を、microHDMI出力端子に接続したテレビ／外部ディスプレイに表示したい場合は、テレビ／外部ディスプレイだけに表示するよう設定してください。
  クローン表示に設定している場合は、映像が表示されません。
- 「電源オプション」で省電力機能を設定してテレビ／外部ディスプレイの表示が消えた場合、画面にさわると表示が復帰します。また、スリープに設定してある場合は、電源スイッチをオリエンテーションロックボタン側にスライドしてください。表示が復帰するまで10秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

1 方法1 － デスクトップ画面で設定する

1 デスクトップ画面上のウィンドウやアイコンなどが表示されていない場所にポインターを移動し、プレス アンド ホールドする

メニューが表示されます。

2 ［グラフィック プロパティ］をタッチする

［次のアプリケーションモードのいずれかを選択してください］画面が表示された場合は、［基本モード］を選択し、［OK］ボタンをタッチしてください。

3 ［ディスプレイ］→［マルチディスプレイ］で表示装置を設定する



（表示例）

■本体液晶ディスプレイ、またはテレビだけに表示

① ［動作モード］で［シングル ディスプレイ］を選択する

② ［主ディスプレイ］で次の項目を選択する

・本体液晶ディスプレイに表示する場合：［内蔵ディスプレイ］

・microHDMI出力端子に接続している表示装置に表示する場合：［デジタル テレビ］

③ ［適用］ボタンをタッチする

メッセージが表示されます。確認して［OK］ボタンをタッチしてください。

■本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示

① ［動作モード］で次のいずれかを選択する

・［クローン ディスプレイ］：クローン表示

・［拡張デスクトップ］：拡張表示

② ［主ディスプレイ］と［2番目のディスプレイ］を設定する

［内蔵ディスプレイ］は「本体液晶ディスプレイ」、［デジタル テレビ］は「microHDMI出力端子に接続している表示装置」を示します。

③ ［適用］ボタンをタッチする

メッセージが表示されます。確認して［OK］ボタンをタッチしてください。

2 方法2 －「TOSHIBA Flash Cards」を使う

表示装置を選択する

「TOSHIBA Flash Cards」で［ディスプレイ表示］のカードをタッチすると、表示装置を選択する画面が表示されます。



＊画面はLCD（本体液晶ディスプレイ）に表示した場合のカードです。



＊アイコンの一覧です。実際は接続している表示装置に応じて切り替え可能なパターンのみ表示されます。

上のカードは現在の表示装置を、下のアイコンは切り替え可能なパターンを示しています。
設定したい表示装置のアイコンをタッチすると、表示装置が切り替わります。

アイコンは、左から次の意味を表しています。

- LCD……………………本体液晶ディスプレイだけに表示
- LCD＋HDMI……………本体液晶ディスプレイとmicroHDMI出力端子に接続の表示装置にクローン表示
- HDMI…………………microHDMI出力端子に接続の表示装置だけに表示
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD+HDMI 拡張デスクトップ…………本体液晶ディスプレイとmicroHDMI出力端子に接続の表示装置に拡張表示
  本体液晶ディスプレイが主ディスプレイになります。

❏ 拡張表示で主ディスプレイを切り替える方法

現在の表示装置が拡張表示に設定されている場合、主ディスプレイと２番目のディスプレイを切り替えるアイコン（ ）が表示されます。



＊ 画面はLCD（本体液晶ディスプレイ）とテレビを接続した場合です。



（表示例）

［ディスプレイの入れ替え］アイコンをタッチすると、主ディスプレイが切り替わります。

ヘルプの起動方法

「TOSHIBA Flash Cards」の詳細は、「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプを参照してください。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Flash Cards］をタッチする**

［Flash Cardsの設定］画面が表示されます。

2 **［ヘルプ］ボタンをタッチする**

3 パソコンから取りはずす

1 **microHDMI出力端子からケーブルを抜く**

4 ヘッドセットやヘッドホンを使う

本製品には、ヘッドセットやヘッドホンを接続できます。
ヘッドセットを使うと、音声ソフトの使用や音声を使ったチャットを行うことができます。
本製品で外付けのマイクを使うときは、ヘッドセットのマイクを使用してください。

お願い ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 9 - ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって」を確認してください。

1 ヘッドセットを使う

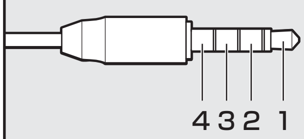
ヘッドセット/ヘッドホン端子には、ヘッドセットを接続できます。本製品にはサウンド機能が搭載されています。

参照 サウンド機能について「2章 7 サウンド」

1 使用できるヘッドセット

本製品で使用できるヘッドセットは次のとおりです。

4極ミニジャック

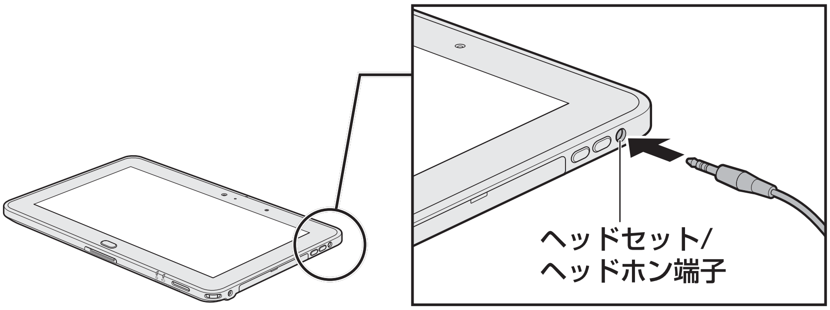


- プラグは直径3.5mm4極ミニジャックタイプが使用できます。
- すべてのヘッドセットに対応するものではありません。
- 左図の数字は、次の内容を示します。
  1：オーディオ左
  2：オーディオ右
  3：グランド
  4：マイク

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するヘッドセットを使用してください。

2 接続する

1 ヘッドセットのプラグをヘッドセット/ヘッドホン端子に差し込む



パソコン上で録音するときの音量を調整する方法は、「本項 3 パソコン上で録音するときの音量調整」を確認してください。

3 パソコン上で録音するときの音量調整

接続したマイクから録音をする際の音量を調節できます。

設定方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をタッチする

2 ［ ハードウェアとサウンド］をタッチする

3 ［ Realtek HD オーディオマネージャ］をタッチする

［Realtek HD オーディオマネージャ］画面が表示されます。

4 ［マイク］タブの［録音ボリューム］のつまみで音量を調節する

5 ［閉じる］ボタン（ ）をタッチする

4 取りはずし

1 ヘッドセット/ヘッドホン端子からヘッドセットのプラグを抜く

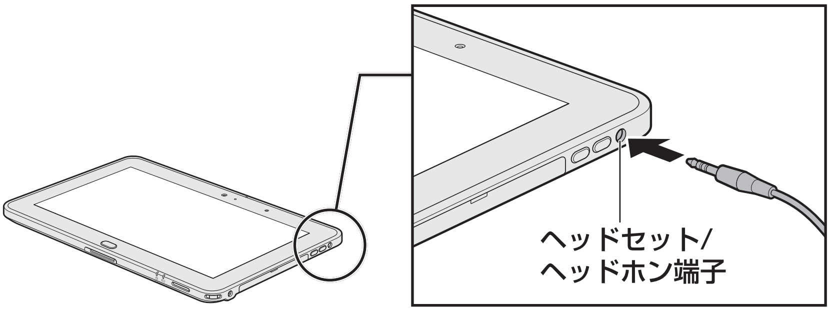
2 ヘッドホンを使う

ヘッドセット/ヘッドホン端子にヘッドホンを接続すると、音楽や音声を聞くことができます。
ヘッドホンのプラグは、直径3.5mmステレオミニジャックタイプを使用してください。
本製品にはサウンド機能が搭載されています。
ヘッドホンの音量は音量小ボタン（ − ）と音量大ボタン（ ＋ ）、またはWindowsの音量ミキサーで調節してください。

参照 「2章 7 サウンド」

1 接続する

1 ヘッドホンのプラグをヘッドセット/ヘッドホン端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドセット/ヘッドホン端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

5 ポート拡張クレードルを使う

本製品のドッキングポートに、オプションのポート拡張クレードル（型番：PAAPR009）を接続することができます。
ポート拡張クレードルには、さまざまな周辺機器を接続することができるため、パソコンの機能を広げることができます。

1 ポート拡張クレードルについて

本体との接続方法など詳細は、『ポート拡張クレードル取扱説明書』を参照してください。
ポート拡張クレードルを接続すると、本体の電源コネクタは使用できなくなりますので、ポート拡張クレードルの電源コネクタを使用してください。
ポート拡張クレードルのうち、本製品に対応しているコネクタは、次のとおりです。
（　）内はコネクタの数です。

- ヘッドホン出力端子
- USB 2.0 コネクタ（2）
- HDMI出力端子

5章

バッテリー駆動で使う

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。
ここでは、充電や充電量の確認などについて説明しています。

1 バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。
本製品を初めて使用するときは、ACアダプターを接続してバッテリーパックを充電してください。
バッテリーパックを充電すると、バッテリー駆動（ACアダプターを接続しない状態）で使うことができます。
バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させてください。
指定する方法・環境以外でバッテリーパックを使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意をお願いします。
『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠危 険

- **バッテリーパックは、本製品に内蔵の製品を使用する**
  寿命などで交換する場合は、東芝PCあんしんサポートに依頼してください。バッテリーパックの交換は、保証期間内でも有料になります。

お願い **バッテリーを使用するにあたって**

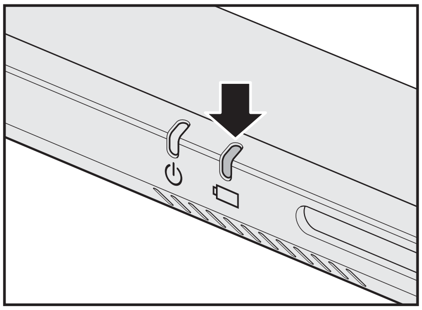
- あらかじめ、「付録 1 - 10 バッテリーについて」を確認してください。

1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 システムインジケーターで確認する

ACアダプターを使用している場合、DC IN/Battery LEDが点灯します。



DC IN/Battery LEDは次の状態を示しています。

白色	充電完了
オレンジ色の点灯	充電中
オレンジ色の点滅	充電が必要 参照 バッテリーの充電について「本節 2 バッテリーを充電する」
消灯	ACアダプターが接続されていない ACアダプターを接続していても消灯している場合は、バッテリー異常の可能性があります。東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

2 通知領域の［バッテリー］アイコンで確認する

通知領域の［バッテリー］アイコン（ ）をタッチすると、バッテリー充電量や電源プランなどが表示されます。



3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- DC IN/Battery LEDがオレンジ色に点滅する（バッテリーの残量が少ないことを示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
  「電源オプション」で［プラン設定の変更］→［詳細な電源設定の変更］をタッチして表示される［詳細設定］タブの［バッテリ］→［バッテリ低下の通知］や［バッテリ低下の操作］で設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

参照 省電力設定（電源オプション）について「本章 2 省電力の設定をする」

上記のような警告が起こった場合は、ただちにパソコン本体にACアダプターを接続し、充電してください。
購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源が切れます。

メモ

- 1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプターを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、DC IN/Battery LEDや［バッテリー］アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。
- 長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、DC IN/Battery LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

4 時計用バッテリー

本製品には、バッテリーパックのほかに、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。
時計用バッテリーの充電は、ACアダプターを接続し電源を入れているとき（電源ON時）に行われますので、普通に使用しているときは意識する必要はありません。ただし、充電量が少ない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

2 バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い　バッテリーを充電するにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 10 - バッテリーを充電するにあたって」を確認してください。

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプターを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN/Battery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源のON／OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 DC IN/Battery LEDが白色になるまで充電する

バッテリーの充電中はDC IN/Battery LEDがオレンジ色に点灯します。
DC IN/Battery LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプター、電源コードの接続を確認してください。

メモ

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

■充電完了までの時間

バッテリー充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けているとき、アプリケーションを使用しているときは、充電完了まで時間がかかることがあります。
詳しくは、『＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■バッテリー駆動時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
詳しくは、『＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■バッテリー駆動時の処理速度

高度な処理を要するソフトウェア（3Dグラフィックス使用など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するためにACアダプターを接続してご使用ください。

■使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。
バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。
スリープを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態、またはハイブリッド スリープにすることをおすすめします。

参照 ハイブリッド スリープについて「2章 2 - 2 - 2 スリープ機能を強化する」

2 バッテリーを長持ちさせる

本製品のバッテリーをより有効に使うための工夫を紹介します。

バッテリーの機能低下を遅くする方法

次の点に気をつけて使用すると、バッテリーの機能低下を遅くすることができます。

- パソコンとACアダプターをコンセントに接続したままの状態で、パソコンを長時間使用しないときは、ACアダプターをコンセントからはずしてください。
- おもにACアダプターを接続してパソコンを使用し、バッテリーパックの電力をほとんど使用しないなど、100%の残量近辺で充放電をくり返すとバッテリーの機能低下を早める場合があります。
- 1ヵ月に1度は、ACアダプターをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

バッテリー充電量を節約する方法

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

  参照 「2章 2 - 3 休止状態」

- 省電力の電源プランを設定する

  参照 「本章 2 省電力の設定をする」

バッテリーの充電能力を調べる

バッテリーパックは、消耗品です。「東芝PCヘルスモニタ」を使用すると、バッテリーパックを交換する目安を調べることができます。

参照 「6章 6 パソコンの動作状況を監視し、記録する」

2 省電力の設定をする

1 電源オプション

「電源オプション」ではパソコンの電源を管理して、電力の消費方法を状況に合わせて変更することができます。
バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らして長い時間使用するように設定したり、電力を使ってパフォーマンスの精度を上げるように設定したりできます。
これらの電源設定を電源プランといいます。
「電源オプション」では、使用環境にあわせて設定された電源プランがあらかじめ用意されていますので、使用環境が変化したときに電源プランを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができます。
購入時には、次の電源プランが用意されています。

- **バランス**
  必要なときは電力を使ってパフォーマンスを最大にし、動作させていないときは電力を節約します。
- **eco**
  東芝の推奨する設定により、消費電力をおさえます。
  参照 「本項 1 - 役立つ操作集 - 東芝ecoユーティリティ」
- **省電力**
  パソコンの動作速度などのパフォーマンスを低下させ、消費電力をおさえます。
  バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常より長くもちます。
- **高パフォーマンス**
  パフォーマンスと応答速度を最大にします。バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常よりも早く消費されます。

＊「省電力」、「高パフォーマンス」は［追加のプランを表示します］の をタッチすると表示されます。

各電源プランの設定を変更したり、新しく電源プランを追加することもできます。詳しくは、「電源オプション」のヘルプをご覧ください。

1 起動方法

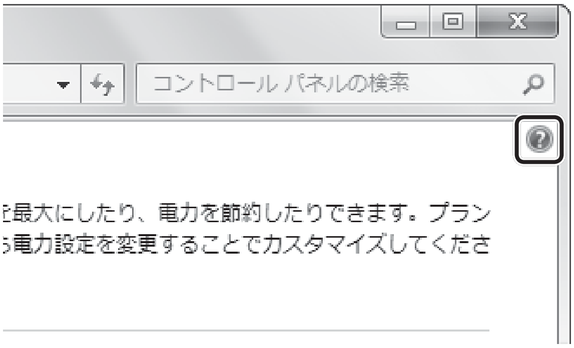
1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をタッチする

2 ［ システムとセキュリティ］→［ 電源オプション］をタッチする

「電源オプション」が起動します。

ヘルプの起動方法

1 「電源オプション」を起動後、画面右上の ボタンをタッチする



2 表示された一覧から知りたい項目をタッチする

該当するページが表示されます。

役立つ操作集

東芝ecoユーティリティ

東芝の推奨する設定により、電源プランやディスプレイの明るさなどを自動的に調節して、消費電力をおさえます。

詳しくは、「東芝ecoユーティリティ」のヘルプをご覧ください。

- **起動方法**
  ① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［ecoユーティリティ］をタッチする
  初回起動時は、［はじめにお読みください］画面が表示されますので、［同意する］をチェックし、［OK］ボタンをタッチしてください。

  ［TOSHIBA ecoユーティリティ］画面が表示されます。

- **ヘルプの起動方法**
  ① ［TOSHIBA ecoユーティリティ］画面で［ヘルプ］ボタンをタッチする
  「TOSHIBA ecoユーティリティ」のヘルプが表示されます。

6章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。
システム環境を変更するには、Windows上のユーティリティで変更するか、またはBIOSセットアップで変更するか、2つの方法があります。
通常は、Windows上のユーティリティで変更することを推奨します。
各項目の詳細は、以降の説明を参照してください。

変更できる項目		Windows上のユーティリティ
ハードウェア環境（パソコン本体）の設定		「東芝HWセットアップ」
パスワードセキュリティの設定	ユーザーパスワード	「東芝HWセットアップ」
	スーパーバイザーパスワード	「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」
省電力の設定		「電源オプション」

BIOSセットアップについては「本章 3 BIOSセットアップを使う」をご覧ください。

2 東芝HWセットアップ

「東芝HWセットアップ」を使い、Windows上でハードウェアの設定を変更できます。
複数のユーザーで使用する場合も、設定内容は全ユーザーで共通になります。

起動方法

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をタッチする**

「東芝HWセットアップ」が起動します。

2 **各タブで機能を設定し、［OK］ボタンをタッチする**

［キャンセル］ボタンをタッチした場合は、設定が変更されません。

ヘルプの表示方法

1 **［東芝HWセットアップ］画面上で、知りたい項目の上へ指をドラッグするように移動させ、そこで指をはなしてしばらく（約5秒）待つ**

項目に対するヘルプが表示されます。
ヘルプが見えにくい場合は、マウスを使用して、知りたい項目にポインターを置いてください。

3 BIOSセットアップを使う

BIOSセットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。
次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定

メモ　BIOSセットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更はWindows上の「東芝HWセットアップ」、「電源オプション」、「デバイスマネージャー」などで行ってください。

  参照 「東芝HWセットアップ」について「本章 2 東芝HWセットアップ」

  参照 「電源オプション」について「5章 2 省電力の設定をする」

  参照 「デバイスマネージャー」について『Windows ヘルプとサポート』

- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOSセットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、時計用バッテリーが消耗した場合は標準設定値に戻ります。

1 起動と終了／BIOSセットアップの操作

1 起動

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた「2章 2 - 1 電源を切る」

2 音量大ボタン（＋）を押しながら、電源を入れ、表示されたメニューで［＜セットアップ起動＞］をタッチし、Windowsボタン（　）を押す

参照 電源の入れかた『取扱説明書』

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して *ENT* キーをタッチしてください。

参照 パスワードについて「本章 4 パスワードセキュリティ」

BIOSセットアップが起動します。
起動できなかった場合は、通常の終了操作を行ってパソコン本体の電源を切り、手順 2 をやり直してください。

2 終了

BIOSセットアップを終了します。

1 ［終了］メニューをタッチする

2 終了方法のいずれかをタッチし、Windowsボタン（ ）を押す

3 画面の指示に従ってBIOSセットアップを終了する

Windowsが起動します。

3 基本操作

基本操作は次のとおりです。
次の表で紹介しているキー操作は、キーボードボタン（ ）を押してソフトウェアキーボードを表示すると実行できます。

＊ソフトウェアキーボードを表示している間、タッチ操作はできません。

メニューを選択する	タッチまたは ← → キー 上段のメニュー名が反転している部分が現在表示しているメニュー画面です。
変更したい項目を選択する	タッチまたは ↑ ↓ キー 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
設定値を選択する／サブメニューや設定値の一覧を表示する	タッチしてWindowsボタン（ ）を押す、 または ENT キー
項目の内容を変更する	F5 、F6 キー　＊一部の項目のみ
設定内容を標準値にする	F9 キー 確認メッセージが表示されます。［はい］または［Yes］をタッチしてWindowsボタン（ ）を押す、または ENT キーをタッチしてください。 各種パスワードはこの操作をしても削除されません。
設定を保存し、BIOSセットアップを終了する	F10 キー 確認メッセージが表示されます。［はい］または［Yes］をタッチしてWindowsボタン（ ）を押す、または ENT キーをタッチしてください。 BIOSセットアップ終了後、Windowsが起動します。
設定を保存しないで、BIOSセットアップを終了する	ESC キー 確認メッセージが表示されます。［はい］または［Yes］をタッチしてWindowsボタン（ ）を押す、または ENT キーをタッチしてください。 BIOSセットアップ終了後、Windowsが起動します。 サブメニュー表示中は1つ前の画面に戻ります。
ヘルプを表示する	F1 キー

4 パスワードセキュリティ

本製品ではパスワードを設定できます。パスワードには大きく分けて次の３種類があります。

- Windowsログオンパスワード
  - ・ Windowsにログオンするとき
  - ・ インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバーを解除するとき

参照 インスタントセキュリティ機能
「2章 4 -「TOSHIBA Flash Cards」を使った便利な機能」

- **ユーザーパスワード、スーパーバイザーパスワード（BIOSパスワード）**
  - ・ 電源を入れたとき
  - ・ 休止状態から復帰するとき

  ユーザーパスワードやスーパーバイザーパスワードを登録すると、電源を入れたときなどにパスワードの入力が必要になります。
  通常はユーザーパスワードを登録してください。

- HDDパスワード
  内蔵フラッシュメモリを起動するとき

ここでは、ユーザーパスワード／スーパーバイザーパスワードやHDDパスワードの設定方法について説明します。

メモ

- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違う文字列を使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、画面上のキーボードまたは外付けキーボードの文字キーを使って直接入力してください。

お願い

- パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。
  パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は有料です。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、内蔵フラッシュメモリは永久に使用できなくなり、交換対応となります。
  この場合も有料です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

パスワードに使用できる文字

ユーザーパスワード、スーパーバイザーパスワード、HDDパスワードに使用できる文字は次のとおりです。
アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

<table>
<tr><td rowspan="3">使用できる文字</td><td>アルファベット（半角）</td><td>a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z</td></tr>
<tr><td>数字（半角）</td><td>0 1 2 3 4 5 6 7 8 9</td></tr>
<tr><td>記号の一部（半角）</td><td>- = [ ] ; ' , . / ` & ˜ （スペース）など</td></tr>
<tr><td>使用できない文字</td><td colspan="2">・ 全角文字（2バイト文字）
・ 日本語入力システムの起動が必要な文字
【例】漢字、カタカナ（全角／半角）、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号など
・ 記号の一部（半角）
【例】¦（バーチカルライン）
¥（エン）など</td></tr>
</table>

パスワード登録時に警告メッセージが表示された場合は、登録しようとした文字列に使用できない文字が含まれています。この場合、もう一度別の文字列を入力し直してください。警告が表示されない場合も、上記「使用できない文字」に該当する文字は使用しないでください。また文字列は必ず画面上のキーボードまたは外付けキーボードから1文字ずつ直接入力してください。

1 ユーザーパスワード

「東芝HWセットアップ」でユーザーパスワードの設定や設定の変更ができます。
ユーザーパスワードは、BIOSセットアップの［セキュリティ］メニューでも設定できますが、「東芝HWセットアップ」で設定することをおすすめします。

1 ユーザーパスワードの登録

あらかじめキーボードアイコン（ ）をタッチして、画面上にキーボードを表示させてから、以降の操作を行ってください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をタッチする

「東芝HWセットアップ」が起動します。

2 ［パスワード］タブで［ユーザーパスワード］の［登録］をタッチする

パスワードを入力する画面が表示されます。

6章 システム環境の変更

3 [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをタッチする

パスワードは10文字以内で入力できます。

参照 パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードに使用できる文字」

パスワードは「＊」（アスタリスク）で表示されますので画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。
パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

パスワードの確認画面が表示されます。

4 [パスワードの確認] に手順 3 で入力したパスワードをもう一度入力し、[OK] ボタンをタッチする

パスワードが登録されます。
入力エラーのメッセージが表示された場合は、[OK] ボタンをタッチして画面を閉じ、手順 2 から操作をやり直してください。

5 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをタッチする

パスワードが登録されます。

6 必要に応じて、[パスワードの注釈] を入力する

[パスワードの注釈] にはパスワードのヒントとなる文字列を登録できます。
登録すると、パスワードの入力が必要なときに、登録した文字列が表示されます。
使用できる文字列はユーザーパスワードと同様です。

参照 パスワードに使用できる文字 「本節 - パスワードに使用できる文字」

パスワード文字列そのものを登録しないでください。

7 [OK] ボタンをタッチする

メモ

- パスワードを忘れてしまったときのために、必ずパスワードを控えてください。

2 ユーザーパスワードの削除

ユーザーパスワードを削除するには、次の手順を実行してください。
あらかじめキーボードアイコン（⌨）をタッチして、画面上にキーボードを表示させてから、以降の操作を行ってください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をタッチする

「東芝HWセットアップ」が起動します。

2 ［パスワード］タブで［ユーザーパスワード］の［未登録］をタッチする

パスワードを入力する画面が表示されます。

3 ［パスワードの入力］にパスワードを入力し、［OK］ボタンをタッチする

パスワードが削除されます。
パスワードの入力エラーの場合は、もう一度手順 2 から操作を行ってください。
入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう一度手順 1 から削除の操作を行ってください。

4 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをタッチする

5 ［OK］ボタンをタッチする

3 ユーザーパスワードの変更

ユーザーパスワードを変更したい場合は、ユーザーパスワードを削除してから、新たに登録してください。

2 スーパーバイザーパスワード

「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」で、Windows上からスーパーバイザーパスワードの設定や設定の変更ができます。
スーパーバイザーパスワードは、BIOSセットアップの［セキュリティ］メニューでも設定できますが、「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」で設定することをおすすめします。

メモ

- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違うものを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーから直接入力してください。

あらかじめキーボードアイコン（　）をタッチして、画面上にキーボードを表示させてから、以降の操作を行ってください。

1 「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」の起動方法

1 ［スタート］ボタン（　）→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［ファイル名を指定して実行］をタッチする

2 「C:¥Program Files¥TOSHIBA¥Utilities¥SVPWUTIL.exe」と入力する

3 ［OK］ボタンをタッチする

2 スーパーバイザーパスワードの登録

1 ［スーパーバイザーパスワード］の［登録］をタッチする

パスワードを入力する画面が表示されます。

2 ［パスワードの入力］にパスワードを入力し、［OK］ボタンをタッチする

パスワードは10文字以内で入力できます。
パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーをタッチして直接入力してください。
パスワードを忘れてしまったときのために、必ずパスワードを控えてください。

3 **［パスワードの確認］にもう一度パスワードを入力し、［OK］ボタンをタッチする**

表示されたメッセージを確認し、［OK］ボタンをタッチする
［ユーザーパスワードモード］を設定する画面が表示されます。

4 **HWセットアップを起動するときにスーパーバイザーパスワードを入力するように設定したい場合は［HWセットアップの起動禁止］を選択し、［OK］ボタンをタッチする**

5 **「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」のメイン画面で［OK］ボタンをタッチする**

6 **表示されたメッセージを確認し、［はい］をタッチする**

スーパーバイザーパスワードが登録されます。

3 スーパーバイザーパスワードの削除

1 **［スーパーバイザーパスワード］の［未登録］をタッチする**

パスワードを入力する画面が表示されます。

2 **［パスワードの入力］にパスワードを入力し、［OK］ボタンをタッチする**

3 **「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」のメイン画面で［OK］ボタンをタッチする**

4 **表示されたメッセージを確認し、［はい］をタッチする**

スーパーバイザーパスワードが削除されます。

3 パスワードの入力

電源を入れたとき／休止状態から復帰するとき

パスワードを登録している場合、パソコンまたはBIOSセットアップ起動時にパスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
この場合は、次の手順を行ってパソコンまたはBIOSセットアップを起動します。

1 設定したとおりにパスワードを入力し、ENT キーをタッチする

パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

1 パスワードを忘れてしまった場合

パスワードを忘れてしまった場合は、東芝PCあんしんサポートに相談してください。パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4 HDDパスワード

＊この操作は、「オンラインマニュアル（本書）」を参照しながら実行することはできません。必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

HDDパスワードは、内蔵フラッシュメモリを保護するセキュリティ機能です。
HDDパスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOSセットアップで行います。

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

お願い

- 万が一登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、内蔵フラッシュメモリは永久に使用できなくなり、内蔵フラッシュメモリの交換対応となります。この場合、有料での交換となります。
  内蔵フラッシュメモリが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社はいっさい責任を負いません。
  HDDパスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいた上でご使用ください。

2 HDDパスワードの種類

HDDパスワードは、HDDユーザーパスワードとHDDマスターパスワードの2つを設定することが可能です。

■HDDユーザーパスワード

各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。
HDDマスターパスワードを削除すると、同時にHDDユーザーパスワードも削除されます。

■HDDマスターパスワード

管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。
HDDマスターパスワードはHDDユーザーパスワードの代わりに使えます。HDDユーザーパスワードを忘れた場合でも、HDDマスターパスワードを入力して内蔵フラッシュメモリにアクセスできます。
なお、HDDマスターパスワードのみを登録することはできません。

HDDユーザーパスワードとHDDマスターパスワードの登録、削除方法は同じです。以降は、HDDユーザーパスワードの設定を例に説明しています。

3 HDDパスワードの登録

HDDマスターパスワードの項目は、BIOSセットアップの「HDD/SSDパスワードモード」が「マスター+ユーザー」の場合のみ表示されます。
「マスター+ユーザー」の場合は、HDDマスターパスワードを設定し、続けてHDDユーザーパスワードの設定を行います。

1 音量大ボタン（＋）を押しながら電源を入れ、表示されたメニューで［＜セットアップ起動＞］をタッチしてWindowsボタン（ ）を押し、BIOSセットアップを起動する

参照 電源の入れかた『取扱説明書』

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
パスワードを入力して ENT キーをタッチしてください。

2 ［セキュリティ］メニューを表示する

3 ［HDD/SSDパスワード］の下にある［ユーザー］をタッチし、Windowsボタン（ ）を押す

HDDマスターパスワードの場合は、［マスター］をタッチし、Windowsボタン（ ）を押してください。
カーソルが［新しいパスワードを入力してください］に移動し、画面上にキーボードが起動します。

4 パスワードを入力する

パスワードは10文字以内で入力します。

参照 パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードに使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに［＊］が表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

5 ENT キーをタッチする

カーソルが［新しいパスワードを確認してください］に移動します。

6 もう一度パスワードを入力する

7 ENT キーをタッチする

メッセージが表示されます。

2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。Windowsボタン（ ）を押して、手順 3 からやり直してください。

8 ENT キーをタッチする

パスワードが登録されます。

9 ［終了］メニューで［変更を保存して終了する］をタッチし、Windowsボタン（ ）を押す

確認の画面が表示されます。

10 ［はい］または［Yes］をタッチし、Windowsボタン（ ）を押す

設定した内容が保存され、Windowsが起動します。

4 HDDパスワードの削除

1 音量大ボタン（ ＋ ）を押しながら電源を入れ、表示されたメニューで［<セットアップ起動>］をタッチしてWindowsボタン（ ）を押し、BIOSセットアップを起動する

参照 電源の入れかた『取扱説明書』

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
パスワードを入力して ENT キーをタッチしてください。

2 ［セキュリティ］メニューを表示する

3 **「HDD/SSDパスワード」の下にある［ユーザー］をタッチし、Windowsボタン（⊞）を押す**

HDDマスターパスワードの場合は、［マスター］をタッチし、Windowsボタン（⊞）を押してください。
カーソルが［現在のパスワードを入力してください］に移動し、画面上にキーボードが起動します。

4 **登録してあるパスワードを入力する**

入力すると1文字ごとに［＊］が表示されます。

5 **ENT キーをタッチする**

カーソルが［新しいパスワードを入力してください］に移動します。
入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。Windowsボタン（⊞）を押して、手順 **3** からやり直してください。

6 **ENT キーをタッチする**

ここでは何も入力しません。
カーソルが［新しいパスワードを確認してください］に移動します。

7 **ENT キーをタッチする**

ここでは何も入力しません。
メッセージが表示されます。

8 **ENT キーをタッチする**

パスワードが削除されます。

9 **［終了］メニューで［変更を保存して終了する］をタッチし、Windowsボタン（⊞）を押す**

確認の画面が表示されます。

10 **［はい］または［Yes］をタッチし、Windowsボタン（⊞）を押す**

設定した内容が保存され、Windowsが起動します。
［HDD/SSDパスワード］で［マスター＋ユーザー］を選択した場合は、HDDマスターパスワードの削除を行うと、同時にHDDユーザーパスワードも削除されます。HDDユーザーパスワードのみを削除することはできません。

5 HDDパスワードの変更

1 音量大ボタン（ ＋ ）を押しながら電源を入れ、表示されたメニューで［<セットアップ起動>］をタッチしてWindowsボタン（ ）を押し、BIOSセットアップを起動する

参照 電源の入れかた『取扱説明書』

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
パスワードを入力して ENT キーをタッチしてください。

2 ［セキュリティ］メニューを表示する

3 「HDD/SSDパスワード］の下にある［ユーザー］をタッチし、Windowsボタン（ ）を押す

HDDマスターパスワードの場合は、［マスター］をタッチし、Windowsボタン（ ）を押してください。
カーソルが［現在のパスワードを入力してください］に移動し、画面上にキーボードが起動します。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに［＊］が表示されます。

5 ENT キーをタッチする

カーソルが［新しいパスワードを入力してください］に移動します。
手順 4 で入力したパスワードが正しくない場合は、エラーメッセージが表示されます。Windowsボタン（ ）を押して、手順 3 からやり直してください。

6 新しいパスワードを入力し、ENT キーをタッチする

パスワードは1文字ごとに［＊］が表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。
カーソルが［新しいパスワードを確認してください］に移動します。

7 もう一度新しいパスワードを入力し、ENT キーをタッチする

メッセージが表示されます。

2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENT キーをタッチして、手順 3 からやり直してください。

8 ENT キーをタッチする

パスワードが変更されます。

9 **［終了］メニューで［変更を保存して終了する］をタッチし、Windowsボタン（ ）を押す**

確認の画面が表示されます。

10 **［はい］または［Yes］をタッチし、Windowsボタン（ ）を押す**

設定した内容が保存され、Windowsが起動します。

6 HDDパスワードの入力

HDDパスワードが設定されている場合、電源を入れるとパスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 **設定したとおりにHDDパスワードを入力し、ENTキーをタッチする**

HDDパスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

メモ

- ユーザーパスワードとHDDパスワードの両方を設定してある場合は、ユーザーパスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。ただし、ユーザーパスワードとHDDパスワードが同一の文字列の場合は、ユーザーパスワードの認証終了後、HDDパスワードの認証は省略されます。

5 TPMを使う

＊TPM搭載モデルのみ

本製品には、TPM（Trusted Platform Module）が用意されています。

1 TPMとは

TPMは、TCG（Trusted Computing Group）が策定した仕様に準拠したセキュリティコントローラーチップです。
一般的に、電子データの保護は暗号処理方式（暗号アルゴリズム）によるものなので、ハードディスク（内蔵フラッシュメモリ）やメモリなどに保存されている暗号鍵が、暗号解読の攻撃対象になる可能性があります。
TPMではこれらの暗号鍵を、メイン基板に組み込まれたセキュリティチップに保存するので、より安全にデータが保護されます。
また、TPMは公開されている標準化された仕様のため、それに対応したセキュリティソリューションを使用することにより、より強固なPC環境を構築できます。
本製品では、TPMの設定は、BIOSセットアップと「Infineon TPM Software Professional Package」で行います。
詳しくは、『Trusted Platform Module 取扱説明書』（PDFマニュアル）とヘルプを参照してください。

お願い TPMの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 8 TPMについて」を確認してください。

2 TPMを有効にする方法

TPMを使用するには、まずBIOSセットアップでTPMを有効に設定する必要があります。

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた「2章 2 - 1 電源を切る」

6章 システム環境の変更

2 音量大ボタン（ ＋ ）を押しながら、電源を入れ、表示されたメニューで［<セットアップ起動>］をタッチし、Windowsボタン（ ）を押す

参照 電源の入れかた『取扱説明書』

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENT キーをタッチしてください。

参照 パスワードについて「本章 4 パスワードセキュリティ」

BIOSセットアップが起動します。
起動できなかった場合は、通常の終了操作を行ってパソコン本体の電源を切り、手順 2 をやり直してください。

3 ［セキュリティ］タブで［TPM］の［使用しない］をタッチし、Windowsボタン（ ）を押す

4 ［使用する］をタッチし、Windowsボタン（ ）を押す

5 ［終了］メニューで［変更を保存して終了する］をタッチし、Windowsボタン（ ）を押す

確認の画面が表示されます。

6 ［はい］または［Yes］をタッチし、Windowsボタン（ ）を押す

設定した内容が保存され、Windowsが起動します。

メモ

- BIOSセットアップでのTPMに関する設定を、管理者の権限を持たないユーザーが変更できないようにすることができます。TPMの設定を守るために、管理者の権限を持たないユーザーに操作制限を加えることをおすすめします。

参照 管理者以外のユーザーの制限について
『Trusted Platform Module 取扱説明書 6 スーパーバイザーパスワードユーティリティ』

3 TPMのインストール方法

TPMを有効にしたあと、「Infineon TPM Software Professional Package」をインストールします。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をタッチする

2 ［セットアップ画面へ］をタッチする

6章 システム環境の変更

3 ［アプリケーション］タブをタッチする

4 画面左側の［Infineon TPM Software Professional Package］をタッチし、［「Infineon TPM Software Professional Package」のセットアップ］をタッチする

5 画面の指示に従ってインストールする

「XXXX（ファイル名）を実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、［実行］ボタンをタッチしてください。
TPMを使用するための設定や使用方法は、PDFマニュアルとヘルプを参照してください。

4 PDFマニュアルのインストール方法

『Trusted Platform Module 取扱説明書』（PDFマニュアル）のインストール方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をタッチする

2 画面のメッセージに従ってインストールする

［アプリケーション］タブの［Infineon TPM Software Professional Package］に用意されています。

5 PDFマニュアルの起動方法

『Trusted Platform Module 取扱説明書』（PDFマニュアル）の起動方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［Trusted Platform Module 取扱説明書］をタッチする

6 ヘルプの起動方法

1 通知領域の［Security Platform］アイコン（ ）をプレス アンド ホールドし、表示されるメニューから［ヘルプ］をタッチする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をタッチしてください。

6 パソコンの動作状況を監視し、記録する －東芝PCヘルスモニター

「東芝PCヘルスモニタ」は、消費電力やバッテリー充電能力、冷却システムなどを監視し、システムの状態をメッセージなどでお知らせします。また、パソコン本体および各種デバイスの使用状況を、収集管理します。

「東芝PCヘルスモニタ」の機能は、ヘルプで確認できます。

お願い

- 「東芝PCヘルスモニタ」は、いかなる場合も東芝の標準的な保証の範囲を広げるものでも変更するものでもありません。東芝の標準的な保証が適用されます。

メモ

- 収集管理されるパソコン本体や各種デバイスの情報、および使用状況の情報は、パソコン本体の内蔵フラッシュメモリに保存されます。これらの情報には以下の内容が含まれます。

PCの基本情報	モデル名、型番、製造番号、BIOSバージョンなど
各種デバイスの基本情報	ディスプレイ、サウンド、ネットワーク、内蔵フラッシュメモリなど
オペレーティングシステム情報	OSバージョン、OSをインストールした日時、Direct Xのバージョン、Internet Explorerのバージョン、修正プログラムのリストなど
各種デバイスの操作時間／回数	電源スイッチ、ACアダプター、バッテリーパック、ディスプレイ、内蔵フラッシュメモリ、USBなど
パソコンの使用開始日付	－
パソコン本体や各種デバイスの使用状況	省電力設定、バッテリーパックの温度や放充電容量、CPU、メモリ、バックライトの点灯時間、各種デバイスの温度など

  内蔵フラッシュメモリに保存されるデータの量は1年間で10MB以下であり、内蔵フラッシュメモリの全体容量のわずかしか使用しません。
- これらの情報は、システム状態の監視と通知、および、パソコンが東芝PCあんしんサポートに持ち込まれたときの不具合の診断に使用します。また、東芝はそれらの情報を品質保証適用の判断に使用することもあります。
- 「東芝PCヘルスモニタ」は、一度有効にした場合でも、「コントロールパネル」の［プログラムのアンインストール］からアンインストールすることで、本機能を動作しないようにすることができます。その際、内蔵フラッシュメモリに記録されている「東芝PCヘルスモニタ」が採取したデータは自動的に削除されます。

1 起動について

ここでは、「東芝PCヘルスモニタ」の起動方法について説明します。

1 起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［サポート＆リカバリー］→［PCヘルスモニタ］をタッチする

初めて起動したときは、「東芝PCヘルスモニタ」の説明画面が表示されます。［次へ］ボタンをタッチすると、［東芝PCヘルスモニタについての注意事項およびデータの収集と利用の許諾］画面が表示されます。画面に表示された内容を確認し、注意と許諾の内容に同意のうえ、［同意する］を選択し、［OK］ボタンをタッチしてください。
「東芝PCヘルスモニタ」が起動し、パソコンの機能の監視と使用状況の情報収集管理を開始します。システムの状態は表示される画面で確認できます。

メモ

- 「東芝PCヘルスモニタ」の利用の許諾に同意し、一度プログラムを有効にすると、「東芝PCヘルスモニタ」の画面を閉じても、パソコンの機能の監視と使用状況の情報収集管理は続行されます。この場合、不調の原因となりうる変化が検出されたときは、通知領域の［東芝PCヘルスモニタ］アイコン（ ）からメッセージが表示されます。

ヘルプの起動方法

1 ［東芝PCヘルスモニタ］画面の［ヘルプ］ボタンをタッチする

付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記しています。

1 ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能のご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。

1 パソコン本体について

スイッチ／ボタン／画面の操作にあたって

- スイッチ／ボタン／画面を強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使ったりしないでください。故障するおそれがあります。

2 バックアップについて

バックアップをとるにあたって

- 内蔵フラッシュメモリや記録メディアに保存しているデータは、万が一故障が起きた場合や、変化／消失した場合に備えて定期的にバックアップをとって保存してください。
  内蔵フラッシュメモリや記録メディアに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いません。
- ユーザー名がリカバリー後と異なる場合、バックアップしたデータが復元できない場合があります。リカバリーをする前にユーザー名を控えてください。

参照 リカバリーについて『取扱説明書』

3 「PC引越ナビ」について

前のパソコンの動作環境について

- すべてのパソコンでの動作確認は行っておりません。したがって、すべてのパソコンでの動作は保証できません。

操作にあたって

- 「1章 3 - 2 起動方法」を参照して、注意制限事項を確認してください。
- 「PC引越ナビ」をご利用の際は、前のパソコンおよび新しいパソコンで、電源コードとACアダプターを接続した状態で、ご利用ください。
  また、「PC引越ナビ」の実行中は、スリープまたは休止状態にしないでください。
- こん包プログラムが作成するこん包ファイルを分割する場合、分割するこん包ファイルの大きさは、最大2GBとなります。
- 「PC引越ナビ」がこん包ファイルで同時に移行できるファイル数は、最大2,147,483,647ファイルです。
- こん包プログラムからこん包ファイルを作成するには、作成される予定のこん包ファイルの大きさ以上の空き容量が、保存先の装置に必要です。

4 内蔵フラッシュメモリについて

操作にあたって

- 内蔵フラッシュメモリに保存しているデータや重要な文書などは、万が一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にUSBフラッシュメモリやSDメモリカードなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など､内蔵フラッシュメモリ､USBフラッシュメモリ、SDメモリカードなどに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカー、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。

5 Webカメラについて

Webカメラを使用するにあたって

- Webカメラを太陽に直接向けないでください。
- Webカメラのレンズ部分に触れたり、強く押したりしないでください。画質が低下する原因となります。
  レンズ部分が汚れた場合は、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でふいてください。

6 無線LANについて

無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、本や厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
  また、無線LANアクセスポイントをパソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属製のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、『取扱説明書』を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる国／地域については、『取扱説明書』を確認してください。

無線LANの操作にあたって

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。
- アドホックネットワーク機能で、設定されているネットワーク名へのネットワーク接続が不可能になる場合があります。
  この場合、再度ネットワーク接続を可能にするには、同じネットワーク名で接続されていたコンピューターすべてに対して、新たに別のネットワーク名で設定を行う必要があります。

7 Bluetoothについて

- 本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべてのBluetooth対応機器との動作を保証することはできません。
- 本製品のBluetooth機能を使用できる国／地域については、『取扱説明書』を確認してください。

8 TPMについて

TPMの操作にあたって

- 「Infineon TPM Software Professional Package」をインストールすると、Windowsログオンパスワードやユーザーパスワードとは別にTPMに対するパスワードを設定する必要があります。設定したパスワードは、忘れたときのために必ず控えておいてください。また控えたパスワードは、安全な場所に保管してください。パスワードがわからなくなった場合、どんな手段でもTPMで保護されたデータを復元することはできません。
- 本製品を修理・保守に出した場合、メイン基板に組み込まれたセキュリティチップ（TPM）内のデータは保証いたしません。TPMを使用している場合に、本製品を保守・修理に出す際は、バックアップウィザードを使用して、TPMをバックアップしておいてください。
  バックアップしたメディアは、安全な場所に保管してください。データのバックアップに関しては、当社はいっさいの責任を負いかねますのでご了承ください。

  参照 バックアップウィザードについて
  TPMのヘルプ『Infineon Security Platformソリューション』

- 本製品を修理・保守に出した場合、搭載されているTPMに障害がなくてもTPM が交換される場合があります。
  その場合、バックアップウィザードを使用して、TPMの設定を復元してください。
- TPMでは、最新のセキュリティ機能を提供しますが、データやハードウェアの完全な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、いっさいの責任は負いかねますので、ご了承ください。
- 管理者（所有者）登録を削除すると、TPMに関係するセキュリティ機能が使用できなくなります。このため、管理者権限を持たないユーザーがBIOSセットアップのTPMに関する項目を操作できないように設定することをおすすめします。

  参照 管理者以外のユーザーの制限について
  『Trusted Platform Module 取扱説明書 6 スーパーバイザーパスワードユーティリティ』

- 管理者（所有者）登録を削除したあとに、TPMの使用を再開する場合は、もう一度TPMへ管理者（所有者）登録を行う必要があります。

9 周辺機器について

周辺機器の取り付け／取りはずしについて

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。４章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
  - ・ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
  - ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
  - ・ほこりが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
  - ・極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
  - ・静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
  - ・本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

USB対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）が対応しており、機器用ドライバーがインストールされている必要があります。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスリープまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

❑取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USBフラッシュメモリやUSB接続のハードディスクドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。

テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- すべてのテレビまたは外部ディスプレイと接続動作確認は行っていません。したがって、すべてのテレビまたは外部ディスプレイへの表示は保証できません。
  テレビまたは外部ディスプレイによっては正しく表示されない場合があります。
- 必ず、映像の再生アプリケーションを起動する前に、表示装置の切り替えを行ってください。起動中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
  ・データの読み出しや書き込みをしている間
  ・通信を行っている間
- クローン表示にしているときに映像を再生させると、画像がコマ落ちをすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、クローン表示にしないで1つの表示装置に表示するか、拡張表示に設定してください。
- 拡張表示でテレビまたは外部ディスプレイをプライマリディスプレイに設定した場合、スリープまたは休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイをはずさないでください。スリープまたは休止状態から復帰したときにログオン画面が表示されずに、操作ができなくなることがあります。
- microHDMI出力端子にテレビまたは外部ディスプレイを接続しているときに、ほかのコネクタにテレビまたは外部ディスプレイや外部サウンド機器が接続されている場合、画面表示を切り替えたりHDMIケーブルを抜き差ししたりすると、システムによって自動的に画面表示または音声の出力が切り替わることがあります。
- テレビまたは外部ディスプレイに表示したときに、デスクトップ画面の周りに黒い帯が表示され、デスクトップ画面がテレビまたは外部ディスプレイの中央に小さく表示されることがあります。
  その場合は『テレビに付属の説明書』または『外部ディスプレイに付属の説明書』を参照して、テレビまたは外部ディスプレイがサポートしている画面モードに設定してください。適切なサイズと適切なアスペクト比で表示されます。

ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドセットやヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
  ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
  ・ヘッドセットやヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

10 バッテリーについて

バッテリーを使用するにあたって

- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。
  バッテリーを使いきってしまうと、スリープが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、ACアダプターを接続してバッテリーと時計用バッテリーを充電してください。

バッテリーを充電するにあたって

- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。
  バッテリーは5～35℃の室温で充電してください。

社団法人　電子情報技術産業協会の「バッテリ関連Q&A集」について
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/battery/menu1.htm

2 記録メディアについて

記録メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。

1 メディアカードを使うにあたって

1 メディアカードの操作にあたって

- メディアカードにアクセス中は、電源を切ったり、メディアカードを取り出したり、本製品の本体を動かしたりしないでください。データやメディアカードが壊れるおそれがあります。
- メディアカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しくセットされていない場合、本製品の動作が不安定になったり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- スリープ中は、メディアカードを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- メディアカードのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- メディアカードを取り出す場合は、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- 本製品の本体を持ち運ぶときは、必ずブリッジメディアスロットからメディアカードを取り出してください。ブリッジメディアスロットやメディアカードが破損するおそれがあります。

付録

2 SDメモリカードを使う前に

- ブリッジメディアスロットにminiSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。
  microSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。miniSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターは使用できません。
- ブリッジメディアスロットからminiSDメモリカード／microSDメモリカードを取りはずすときは、必ずminiSDメモリカードまたはmicroSDメモリカード用のアダプターに装着したままの状態で行ってください。
- すべてのSDメモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのSDメモリカードの動作保証はできません。
- SDメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。
  そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。

- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SDメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

SDメモリカードのフォーマットについて

- 再フォーマットする場合は、SDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。
  本製品でSDメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤーなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したSDメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

3 マルチメディアカードを使う前に

- すべてのマルチメディアカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのマルチメディアカードの動作は保証できません。
- マルチメディアカードの詳しい使いかたなどについては『マルチメディアカードに付属の説明書』を確認してください。

付録

2 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（USBフラッシュメモリ、SDメモリカードなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。
初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合もありますので、十分ご確認ください。
データ消去のための専用ソフトや、記録メディア専用のシュレッダーも販売されています。

3 お客様登録の手続き

パソコンやアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザー）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザー登録」といいます。お客様登録は、パソコン本体、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。

1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。
サービス内容は、『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

詳しくは、次のアドレス「Room1048（TID）会員サイトについて」をご覧ください。
https://toshibadirect.jp/supportguide/about_sight.aspx

1 ［東芝お客様登録］アイコンからのご登録方法

インターネット接続の設定やインターネットプロバイダーとの契約をしてある場合に、［東芝お客様登録］アイコンからTID登録を行う方法を説明します。インターネットに接続している間の通信料金やプロバイダー使用料などの費用はお客様負担となりますので、あらかじめご了承ください。

メモ

- インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。

1 デスクトップ上の［東芝お客様登録］アイコン（）をダブルタッチする

［お客様登録サービス「Room1048」ご登録のお願い］画面が表示されます。
以降は、画面の指示に従って操作してください。

メモ

- インターネットに接続後、URLを入力して登録用のホームページにアクセスすることもできます。
  登録用ホームページ：http://toshibadirect.jp/room1048/
  商品の追加登録も、登録用のホームページから行えます。

付録

4 技術基準適合について

■瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

■高調波対策について

JIS C 61000-3-2 適合品

本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

■電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

参照 『取扱説明書』の「Q&A集」の「Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」

■「FCC information」について

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's Universal Serial Bus(USB 2.0)port, HDMI out port and microphone/headphone combo jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules.
Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

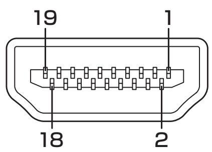
Telephone : (949) 583-3000

5 各インターフェースの仕様

1 microHDMI出力端子

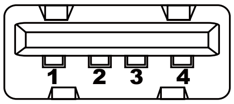
ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	Hot Plug Detect	ホットプラグディテクト	I
2	Reserved	予約	
3	TMDS Data2+	TMDSデータ（2＋）	O
4	TMDS Data2 Shield	TMDSデータ（2）シールド	
5	TMDS Data2-	TMDSデータ（2－）	O
6	TMDS Data1+	TMDSデータ（1＋）	O
7	TMDS Data1 Shield	TMDSデータ（1）シールド	
8	TMDS Data1-	TMDSデータ（1－）	O
9	TMDS Data0+	TMDSデータ（0＋）	O
10	TMDS Data0 Shield	TMDSデータ（0）シールド	
11	TMDS Data0-	TMDSデータ（0－）	O
12	TMDS Clock+	TMDSクロック（＋）	O
13	TMDS Clock Shield	TMDSクロックシールド	
14	TMDS Clock-	TMDSクロック（－）	O
15	Reserved	予約	
16	Ground	グランド	
17	SCL	SCLデータクロック信号	O
18	SDA	SDA通信信号	I/O
19	+5V Power	電源	

コネクタ図



信号名　　　　：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

2 USBインターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	VBUS	＋5V	
2	D-	マイナスデータ	I/O
3	D+	プラスデータ	I/O
4	GND	グランド	
コネクタ図			
			

信号名　　　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力